

19

598

如三庵居士講述
因明學之概略

014743-000-3

19-598

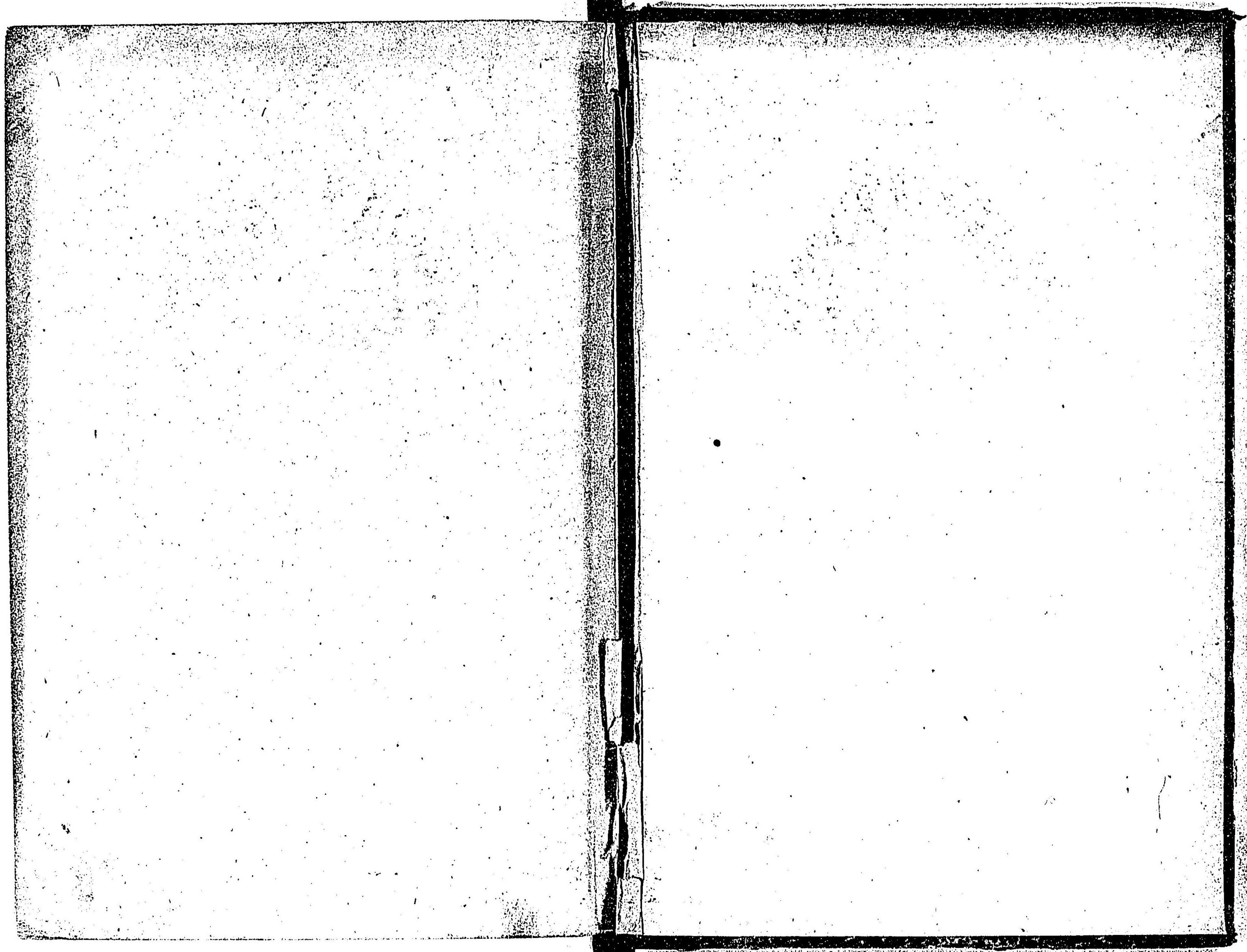
因明學之概略

畠山 省三 / 著

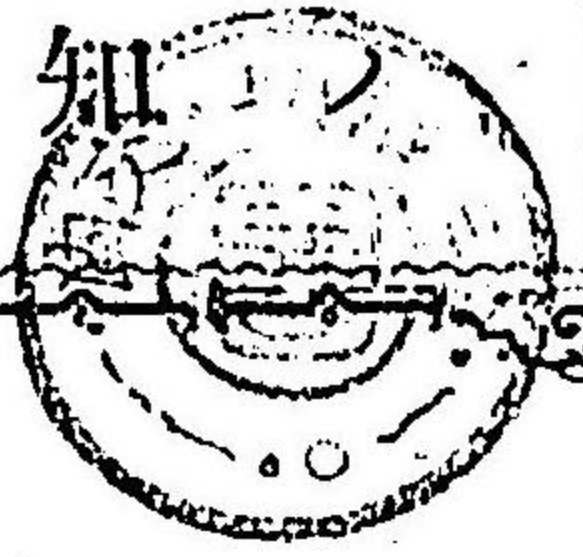
M30

ABC-0032





應神山下居士林アリ名ケテ安心會ト云フ會
 目的ハ佛教ノ眞理ヲ研究シ此レニ因テ如實知
 自心即チ無畏安心ノ岸ニ到達センコトヲ期ス
 ルニアリ余亦員ニ列シ去年以來本會羯摩ノ一
 端トシテ因明學ノ概要ヲ講述セリ其講述ヤ眞
 ノ概要ニテテ所謂一場ノ茶話ニ過キス偶々今
 茲八月閑ヲ得テ州ノ龍城蘭若ニ遊ヒ日夕無聊
 ノ餘二三會員ノ筆記ヲ纂メ聊カ之レニ修正ヲ



加エ稍ヤ首尾ヲ一貫セリ而シテ今是レヲ印刷
 ニ附スルモノ素ヨリ世ニ公ニスルノ意ニアラ
 ス唯同好博雅ノ士ニ頒テ以テ斧正ヲ待ツアラ
 ントスルノミ其用意周到ナラス編纂極メテ粗
 漏ナルハ余カ微力ノ致ス所ナレハ讀者頼ヒニ
 之レヲ恕セ

明治廿九年十月

如々庵居士識

因明學之概畧

如々庵居士述

緒言

因明ハ印度上古ノ原語ケイトヒタノ義ニシテ即チ言論ノ法
 則ナリ今ヲ溯ルニ二千餘年前印度ノ文物ヲ考フルニ釋迦如來
 在世ノ時ニ當リ文學ヲ五大學科ニ分テリ〔此五大學科ハ釋迦
 佛出世以前ヨリ存在スルモノニテ釋尊ノ所造ニハアラサレ
 元其以前ニハ歴史等ノ備ハルモノ少ナク釋尊時代ニ至リ明
 カニ完成シタルナリ〕
 因明ハ五大學科ノ一ニシテ西洋ノ所謂論事矩ニ等シク論理
 學ナリ〔仔細ニ論スレハロジックハ思想ヲ主眼トシ因明ハ言

加エ稍ヤ首尾ヲ一貫セリ而シテ今是レヲ印刷
ニ附スルモノ素ヨリ世ニ公ニスルノ意ニアラ
ス唯同好博雅ノ士ニ頒テ以テ斧正ヲ待ツアラ
ントスルノミ其用意周到ナラス編纂極メテ粗
漏ナルハ余カ微力ノ致ス所ナレハ讀者頼ヒニ
之レヲ恕セ

明治廿九年十月

如々庵居士識

因明學之概畧

如々庵居士述

因明ハ印度上古ノ原語「ケイトヒタ」ノ義ニシテ即チ言論ノ法
則ナリ今ヲ溯ルニ二千餘年前印度ノ文物ヲ考フルニ釋迦如來
在世ノ時ニ當リ文學ヲ五大學科ニ分テリ〔此五大學科ハ釋迦
佛出世以前ヨリ存在スルモノニテ釋尊ノ所造ニハアラサレ
ル其以前ニハ歴史等ノ備ハルモノ少ナク釋尊時代ニ至リ明
カニ完成シタルナリ〕
因明ハ五大學科ノ一ニシテ西洋ノ所謂論事^{ロシツク}矩^{ツク}ニ等シク論理
學ナリ〔仔細ニ論スレハロジツクハ思想ヲ主眼トシ因明ハ言

語ヲ主眼トスルノ差別アレ^レ而テ西洋ノ論理學モ東洋ノ因明モ別ニ優劣アルニハアラス只實際應用ノ巧拙ニ據ルノミ要スルニ論理學ハ言論ヲ爲スニモ文章ヲ作ルニモ其基礎トナルモノナレハ文學ニ志アルモノ其法則丈ケハ知得モサル可カラス

抑モ因明ノ字義ニ就テハ古來ノ說明ニ五義アレ^レ开ハ專門ニ研究スヘキ場合ニ讓リ今ハ之ヲ畧ス要スルニ因ハ〔所由所以〕明ハ〔照顯〕ノ意ニシテ直覺ノ出來サル幽隱ナル事柄ヲ因ノ推續力ニ依リテ明瞭ニ斷定スルヲ得ルト云フカ普通ノ解釋ナリ

因明ニ關スル書籍ハ古來其首尾ヲ一貫シタル完全ノモノ稀少ニシテ佛教ノ經論中所々ニ散在セリ或ハ三十三過若クハ

三支ノ作法等稍完全ノモノアレ^レ何レモ一條項一科目ツ、ヲ講シタルモノ多シ近年雲英光耀師因明活眼ヲ著シ村上專精師因明學全書ヲ著シタリ共ニ稍首尾貫通スレ^レ素ヨリ大体ヲ畧述シタルモノニ止リ且ツ耳馴レサル言語アルヲ以テ斯學ニ指ヲ染メサル人ニハ解シ難キ事モ少ナカラス余モ亦專門ニ斯學ヲ研究シタルニ非ス只僅カニ入正理論等一二ノ書籍ヲ瞥見シタルニ止マルモノナレハ決シテ精微ナル講述ヲ爲ス能ハス僅カニ其名目ヲ列記シテ其責ヲ塞クノミ〔因ニ五大學科ノ名稱ヲ列記セハ左ノ如シ〕

內 明 普通道義即心理ニ關スル全般ノ學

醫方明 生理及醫術ニ關スル學

工巧明 凡百ノ工業ニ關スル學

聲明 音聲律呂ニ關スル學

因明 論理ニ關スル學

佛教ニテハ此五大學科ヲ修メタルモノヲ菩薩〔覺者〕或ハ羅漢〔學士〕ト云フ

因明學講究ノ方法順序等ハ別ニ一定シタル章條ナシト雖モ普通先ツ十二章段ニ分ツ故ニ茲ニ其名目順序ヲ掲出シ順次之レヲ説明ス可シ

- 一 因明總論
- 二 因明沿革
- 三 三支作法
- 四 能立能破
- 五 因有三相

六 現量比量

七 三量二因

八 足目九句

九 宗九過

十 因十四過

十一 喻十過

十二 十四過類

因ミニ曰因明學ニハ一ノ約束語アリテ漢音ニモ非ス吳音ニモ非サル讀方ヲ爲スヘキ場合アリ其熟語對句等極メテ奇妙ナルモノ多ク好事ノ所爲ニ似タレモ元來因明ハ言語ノ學問ナレハ因明家ノ本色トシテハ必ス其法則ニ據ラサル可カラス抑モ因明學ニテハ論理ノ語ヲ構成スルコトヲ立量ト云フ

而シテ其發論スルモノヲ立者ト云ヒ相手方ヲ敵者ト云フ即チ立者ハ原告ニシテ敵者ハ被告ノ如シ立敵共ニ量ヲ立ツルニ必ス宗因喩ノ三支ヲ全フセサレハ言論ノ構成ヲ欠クモノトス其作法ハ順次説明スヘシト雖モ此法則ハ斯學中最モ必要ナルモノナレハ最初ニ於テ其例ヲ示スヘシ

- 宗 人ハ死ス可キモノナリ
- 因 生命アルカ故ニ
- 喩 總テノ動物ノ如シ

(一) 因明總論 [瑜伽論所說七因明]

瑜伽論ハ彌勒菩薩ノ所著ニシテ其內論理學ニ關スル條目七ツアリ其目左ノ如シ

- 一 論體
- 二 論所
- 三 論據
- 四 論莊嚴
- 五 論負
- 六 論出離
- 七 論多所作法

第一論體

凡ソ議論ヲ爲スニ當リテハ第一ニ其論ノ體性ヲ定メサル可カラズ若シ自分ノ體性ヲ定メスシテ向フキハ却テ敵者ノ爲メニ破ラルヽノミナラス如何程能辯ナリトテモ人ヲ感服セシムルコト能ハサルナリ故ニ議論ヲ爲サント欲スルキハ主トシテ其體ヲ正確ニス可シ瑜伽論ニ據ルニ論體ヲ左ノ六ツニ分ツ

- 一 言論 言論トハ普通言語ノ義ニシテ以下ノ五ツヲ總括ス即チ總テノ議論ノ能生ノ母ナリ
- 二 尙論 尙論トハ高尙ノ意ニシテ人ノ言行ノ佳ナルヲ

舉ケテ之レヲ賞讃スル等ノ体ナリ

三 諍論 諍論トハ一許一不許ノトキ互ニ相争フモノニ

シテ一意自説ヲ主張スル等ノ体ナリ

四 毀謗論 毀謗論トハ讚テ字ノ如ク宗教家ノ破邪政治家

ノ主義争ヒ抔ト云フ如ク他人ヲ攻撃罵詈スル

等ノ体ナリ

五 順正論 順正論トハ正理ニ順シテ論スルヲ云フ蓋シ世

間一般ノ真正論体ナリ

六 教導論 教導論トハ之レ亦文字ノ如ク人ヲ教ヘ導クノ

語ニシテ所謂説教等ノ体ナリ

第二論所

凡ソ議論ヲ爲スニハ先ツ以テ其場所ヲ選ムヘシ無智蒙昧

人ノ前ニ於テ議論ヲ爲ス何ノ益カアラン又只立敵ノミニ

テハ水掛論トナル故ニ宜シク適當ノ人ヲ撰ンテ証義者ト

爲サバルヘカラス今論所ヲ分ツテ六トシ或ハ二トス其目

左ノ如シ

一 王家 二 執理家 三 多人ノ中 四 賢哲ノ前

五 善解條理人ノ前 六 條理ヲ樂ム人ノ前

又一説ニハ

一 王家 二 証義者

此名目ハ文字ノ如シ別ニ説明ヲ要セサルヘシ

第三論據

凡ソ議論ヲ爲スニハ吾論ノ根據ヲ正確ニセサル可カラス

其據ル所堅固ナラサレハ直チニ敵ノ爲メニ敗北ヲ取ル可

シ故ニ論據ハ議論ヲ爲スニ最モ必要ナリ概テ左ノ如キ立
具ヲ論據トス

- 一宗
- 二因
- 三喩
- 四現量
- 五比量

六聖教量

宗因喩ハ前ニ陳ヘタル言論構成ノ三支ナリ現量トハ議論
ヲ爲ス根本ノ智慧ニシテ物質ノ有様ヲ直前ニ指シテ証據
ヲ舉クルナリ比量トハ物質ノ直前ニアラサルヲ他物ヲ以
テ比例スル智慧ナリ聖教量トハ聖賢ノ教ヲ據トスルコト
ナリ之等ノ論據具備スルモノヲ真能立ト云ヒ其缺点アル
モノヲ似能立ト云フ敵者ニ就テハ正ヲ真能破ト云ヒ邪ヲ
似能破ト云フ

第四論莊嚴

論莊嚴ハ論者ノ莊嚴ヲ要スル義ニシテ立論ノ際通レノ語
ヲ使ハシムルモノナリ今大別シテ五トシ尙其第二ノ言具
圓滿ヲ小別シテ五トス其目左ノ如シ

- 一善自他宗 自他ノ學理ニ通曉スルヲ要ス古來ノ言ニ
所破明カナラスンバ能破立セスト云フ語アリ即チ
他ノ宗義ヲ了セサレハ自ラノ宗義ヲ定ムルコト難
シ

二言具圓滿

- 不鄙 成ルヘク普通ノ語ヲ用ヒテ一地方ノ方言等他ニ通用セサル卑シキ辭
ヲ用ヒサルヲ云フ
- 輕易 極メテ輕便簡易ノ語ヲ用フヘシ生嚼リノ漢語洋語等ノ如ク殊更ニ難
語ヲ用ヒサルヲ云フ
- 雄朗 雄豪ノ精神ヲ以テ明朗ナル言語ヲ用ユルコトヲ要スルヲ云フ
- 相應 其言語前後撞着セサルヲ云フ
- 義善 言語ト思想ト反對顛倒セサルヲ云フ

三無畏 自己ノ言旨正確ナルヲ信シ恐怖ノ意ヲ抱カス
 容貌泰然トシテ威嚴ヲ備フルヲ云フ
 四敦肅 論ヲ爲スニ遲緩ナラス大速ナラス首尾權衡ヲ
 失ハス辯舌流暢ニシテ訥ナラサルヲ云フ
 五應供 慈善ヲ施スト云フノ意義ナリ議論ヲ爲シテ敵
 者ヲ心服セシムルハ社會ノ真理ヲ明ラカニスルノ
 目的ニシテ無暗ニ我意ヲ貫カントスルニ非サルコ
 トヲ忘ルヘカラス故ニ議論ハ中心憤怒ヨリ爲スヘ
 キモノニ非スシテ粗暴ニ涉ルノ言語ヲ謹ミ他ノ心
 得違ヒテ正道ニ教導スルト云フ親切心ヲ離レサル
 ヲ要ス

第五論負

論ノ墮負ヲ云フ議論ニ敗ヲ取テ尙頑固ニ主張スルコトナ
 ク所謂過ヲ改ムルニ憚ルコトナカレト云フノ場合ナリ之
 ヲ分ツテ三トス
 一捨言 自ラ論ノ非ナルヲ知リ直ニ其言ヲ捨ルキ
 二言屈 敵者ニ云ヒ伏セラレテ言語ノ屈スルキ或ハ本
 論ノ幾分ヲ轉セント計ルキ
 三言過 其言語ニ三十三過等ノ過失アルキ

第六論出離

凡ソ論ヲ爲スニハ身心ヲ安住シテ立言セサル可カラス故
 ニ其初メニ能ク考ヘテ到底此所ニテハ議論ス可カラスト
 思慮スル片ハ議論ヲ出離シ議場ヲ脱却ス可シ之ヲ分ツテ
 左ノ三トス

一考察得失 自他ノ宗義ヲ觀察シテ其利害得失ヲ考ヘ
 無益ト思慮シタルキハ之ヲ止ム可シ
 二考察時衆 議場ニ醉人狂人又ハ反對主義ノ人多クア
 ル場合若クハ証義者其人ヲ得サル等ニテ快ク主義
 ノ成立セサルヲ考察シタルキハ之ヲ止ムヘシ
 三考察能否 我論據ノ確乎タラサル場合又ハ先方カ非
 常ノ學者等ニテ迎モ自分ト腕前ヲ争フ能ハサルヲ
 知ルキハ之ヲ止ムヘシ

第七論多所作法

凡ソ議論ス可キ時ノ身構ヘ及ヒ論法ハ以上陳ヘタル所ノ
 如ク自他ノ學理ニ達シ勇猛無畏辯舌流暢克ク其地位ヲ莊
 嚴ニシ尙其機ニ臨ミ變ニ應シテ論談スルキハ勝利ヲ得ル

「難カラス宜シク其時ト場合ヲ考察シテ立論シ勝利ヲ期
 スヘシト云フノ意ナリ、

(二) 因明沿革

因明ハ印度上古ノ學ナリ而テ之ヲ實地ニ應用シタルモノハ
 釋迦如來ニシテ之ヲ完成シタルハ陳那天主ノ二論師ヲ主ト
 ス然レモ遠ク其原ヲ求ムレハ足目ナル人アリテ九句因及十
 四過類ヲ唱ヘタルニ始ルト云フ其時代ハ分明ナラサレモ印
 度ニテハ世界ノ構造ヲ四期ニ分ツ即チ成劫、住劫、壞劫、空劫、是
 ナリ而テ釋迦ハ住劫ノ人ニシテ足目ハ成劫ノ人ナリト云ヘ
 ハ頗ル上世ノ人タルハ勿論其人休學派等ニ就テハ種々異說
 アレモ確乎タル史乘ノ據ルヘキモノアラス兎ニ角古代稀ナ

一考察得失 自他ノ宗義ヲ觀察シテ其利害得失ヲ考へ
 無益ト思慮シタルキハ之ヲ止ム可シ
 二考察時衆 議場ニ酔人狂人又ハ反對主義ノ人多クア
 ル場合若クハ証義者其人ヲ得サル等ニテ快ク主義
 ノ成立セサルヲ考察シタルキハ之ヲ止ムヘシ
 三考察能否 我論據ノ確乎タラサル場合又ハ先方カ非
 常ノ學者等ニテ迎モ自分ト腕前ヲ争フ能ハサルヲ
 知ルキハ之ヲ止ムヘシ

第七論多所作法

凡ソ議論ス可キ時ノ身構へ及ヒ論法ハ以上陳へタル所ノ
 如ク自他ノ學理ニ達シ勇猛無畏辯舌流暢克ク其地位ヲ莊
 嚴ニシ尙其機ニ臨ミ變ニ應シテ論談スルキハ勝利ヲ得ル

「難カラス宜シク其時ト場合ヲ考察シテ立論シ勝利ヲ期
 スヘシト云フノ意ナリ、

(二) 因明沿革

因明ハ印度上古ノ學ナリ而テ之ヲ實地ニ應用シタルモノハ
 釋迦如來ニシテ之ヲ完成シタルハ陳那天主ノ二論師ヲ主ト
 ス然レモ遠ク其原ヲ求ムレハ足目ナル人アリテ九句因及十
 四過類ヲ唱へタルニ始ルト云フ其時代ハ分明ナラザレモ印
 度ニテハ世界ノ構造ヲ四期ニ分ツ即チ成劫、住劫、壞劫、空劫、是
 ナリ而テ釋迦ハ住劫ノ人ニシテ足目ハ成劫ノ人ナリト云へ
 ハ頗ル上世ノ人タルハ勿論其人体學派等ニ就テハ種々異說
 アレモ確乎タル史乘ノ據ルヘキモノアラス兎ニ角古代稀ナ

ル聰明ノ人タリシハ疑ヒナシ但シ世界構造ノコトハ今説明スルノ要ナケレハ之ヲ畧ス
 釋迦如來ノキ九十六種ノ異說者アリ釋尊是ヲ論破セント欲シ大ニ九句因ヲ修正シテ因明ノ法則ヲ定メタリ故ニ釋尊ノ經典ハ多ク因明法ヲ備フ中ニ就キ涅槃經等最モ其法ニ適フト云ヘリ
 釋尊滅後龍樹論師ハ方便心論ヲ著シ彌勒菩薩ハ瑜伽論ヲ作り無着論師ハ顯揚論雜集論ヲ作り世親論師ハ論規論式論心ノ書ヲ造ルト云ヘリ(之レ等ノ書日本ニ渡ラス)次ニ陳那論師出タリ此人論理學中興ノ祖ニシテ其雄辯ナルコト印度大陸中當ルモノナシ其雄健精緻ノ議論ヲ以テ異說者ヲ破ルノ勢ヒ恰モ大龍ノ群類ヲ壓スルカ如シ故ニ人呼テ大域龍ト云ヘ

リ此人既往因明ノ不完全ナルヲ修正シ因明正理門論ヲ著シ古因明五段法ヲ改メ三段法トス故ニ陳那ヲ以テ新因明ノ祖トス次ニ其弟子天主出ツ此人亦因明ニ委ク頗ル其法ヲ完成セリ即チ三量二因八門兩益等ノ規則ヲ立テ尙入正理論ヲ造レリ今日日本ニテ使用セルモノ多ク此末書ナリ(以上印度)支那ニ在テハ唐ノ太宗貞觀三年(當明治廿九年ヨリ一千二百六十七年前)ニ彼ノ有名ナル玄奘三藏印度ニ留學シ在留十七年間北印度ノ衆彌論師中印度ノ戒賢論師等ニ就テ之ヲ學ヒ歸國ノ後之レヲ其弟子慈恩大師ニ傳フ慈恩入正理論ノ疏六卷ヲ造ル(後世之ヲ因明大疏ト云フ蓋シ因明學ノ全般ヲ包含シ得タルノ云ナリ)次ニ溜州ハ義斷一卷纂要一卷ヲ作り智周ハ前記三卷後記二卷ヲ著シ大疏ノ義理ヲ解釋セリ其後道邑

ル聰明ノ人タリシハ疑ヒナシ但シ世界構造ノコトハ今説明スルノ要ナケレハ之ヲ畧ス
 釋迦如來ノ年九十六種ノ異說者アリ釋尊是ヲ論破セント欲シ大ニ九句因ヲ修正シテ因明ノ法則ヲ定メタリ故ニ釋尊ノ經典ハ多ク因明法ヲ備フ中ニ就キ涅槃經等最モ其法ニ適フト云ヘリ
 釋尊滅後龍樹論師ハ方便心論ヲ著シ彌勒菩薩ハ瑜伽論ヲ作リ無着論師ハ顯揚論雜集論ヲ作り世親論師ハ論規論式論心ノ書ヲ造ルト云ヘリ(之レ等ノ書日本ニ渡ラス)次ニ陳那論師出タリ此人論理學中興ノ祖ニシテ其雄辯ナルコト印度大陸中當ルモノナシ其雄健精緻ノ議論ヲ以テ異說者ヲ破ルノ勢ヒ恰モ大龍ノ群類ヲ壓スルカ如シ故ニ人呼テ大域龍ト云ヘ

リ此人既往因明ノ不完全ナルヲ修正シ因明正理門論ヲ著シ古因明五段法ヲ改メ三段法トス故ニ陳那ヲ以テ新因明ノ祖トス次ニ其弟子天主出ツ此人亦因明ニ委ク頗ル其法ヲ完成セリ即チ三量二因八門兩益等ノ規則ヲ立テ尙入正理論ヲ造レリ今日日本ニテ使用セルモノ多ク此末書ナリ(以上印度)支那ニ在テハ唐ノ太宗貞觀三年(當明治廿九年ヨリ一千二百六十七年前)ニ彼ノ有名ナル玄奘三藏印度ニ留學シ在留十七年間北印度ノ衆彌論師中印度ノ戒賢論師等ニ就テ之ヲ學ヒ歸國ノ後之レヲ其弟子慈恩大師ニ傳フ慈恩入正理論ノ疏六卷ヲ造ル(後世之ヲ因明大疏ト云フ蓋シ因明學ノ全般ヲ包含シ得タルノ云ナリ)次ニ溜州ハ義斷一卷纂要一卷ヲ作り智周ハ前記三卷後記二卷ヲ著シ大疏ノ義理ヲ解釋セリ其後道邑

道猷等輩出セリ(以上支那)

日本ニ在テハ百濟ノ尼法明カ一切經ヲ齋ラセシヲ教法入國ノ始メトス其後支那ヨリ傳來スルコト四回故ニ古來四度ノ傳來ト云フ而テ入唐斯學ヲ學ヒ歸リシハ左ノ人ナリ

元興寺ノ道昭(白雉四年(當明治廿九年)ヨリ一千二百四十二年)前(入唐)智通、智達、(齊明帝四年入唐)智鳳、智鸞、智雄、(天寶三年入唐)

興福寺ノ元昉(寶龜二年(當明治廿九年)ヨリ一千八百八十一年)前(入唐)

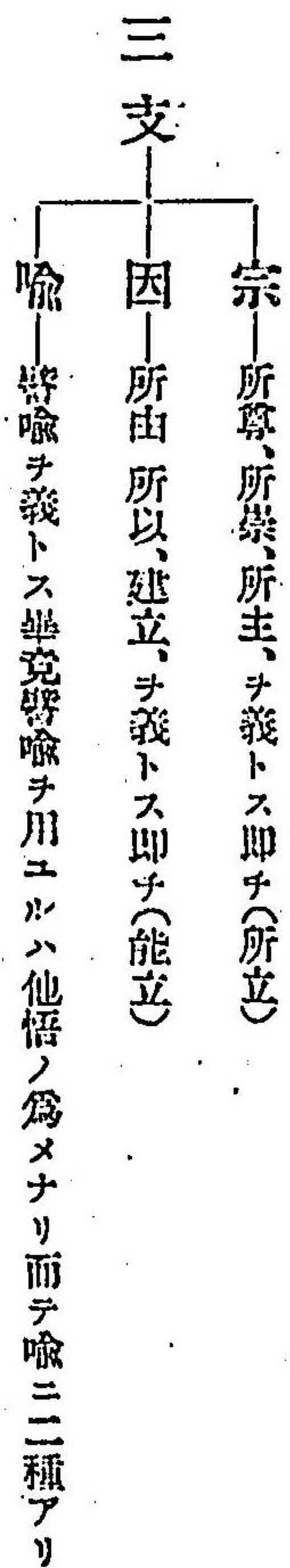
右ノ如クニシテ元興寺ノ傳來ヲ南寺傳ト云ヒ興福寺ノ傳來ヲ北寺傳ト云フ

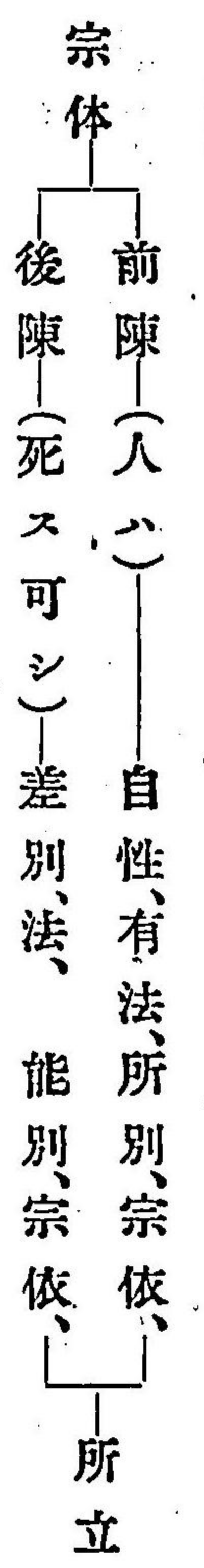
因明學ハ秘密ニシテ猥リニ俗人ニ傳授セサリシモノカ此時

代ニハ佛敎學徒ノ外餘リ此學ヲ爲シタルモノアルヲ聞カス然レモ醍醐帝ノ時ハ御所ニ於テ因明學ノ講義アリ又保元ノ頃ニハ左大臣賴長德川時代ニ在テハ大岡越前守等專ラ因明ヲ學ヒタリト云フ近年ニ及ンテモ大塩後素等ノ如キ陽明學者ハ多ク因明學ヲシラベタルモノ、如シ(傳通緣起大日本史列傳、其他諸書ニ散見ス)(以上日本)

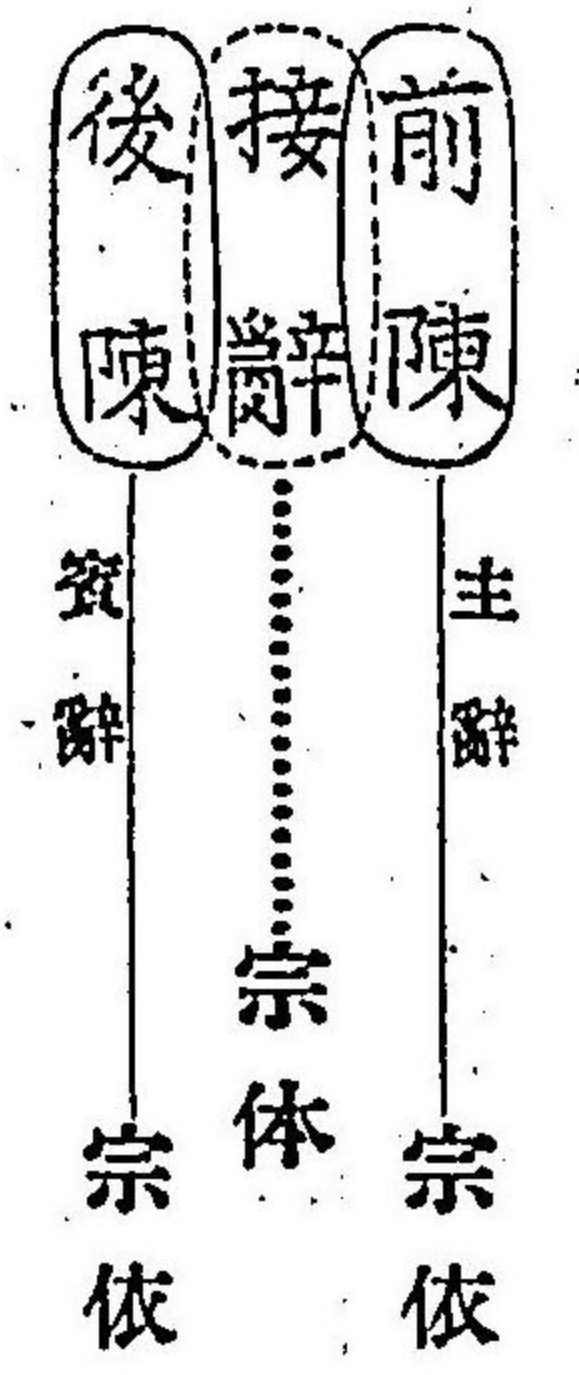
(三) 三支作法

三支トハ言論ノ構成法ヲ云フ圖示セハ左ノ如シ





右ノ如ク前陳ヲ体トシ後陳ヲ義トスロジツクニテ云ヘハ前陳ハ主辭後陳ハ賓辭ニ當ル再言セハ火ハ熱シ今日ハ寒シト云フ火又ハ今日ハ前陳ニシテ熱シ寒シハ後陳ナリ此二辭連續セサレハ一ツノ語ヲ爲サス圖示セハ左ノ如シ



次ニ或人ノ造リシ量ヲ示シテ普通作法及ヒ合作法、離作法ヲ例示セン

宗 日本等ハ其國律ヲ以テ其國律ヲ犯ス外國人ヲ處ス

ルコトヲ得ヘシ

因 獨立ノ帝國ナルカ故ニ

喩 魯國ノ如シ(同) 印度ノ如シ(異)

此量ハ條約改正論者カ治外法權ヲ解カント論スル量ニシテ眞正ノ獨立國ナレハ理トシテ他ノ魯國ノ如キ地位ヲ保タサル可カラス故ニ魯國等ヲ舉ケ正助因ト爲シ異喩ニ於テ印度ノ如シト云フ即チ印度ハ獨立國ニ非サル故外國ノ犯人ヲ處スル能ハサルナリ

因ミニ曰日本等ノ等ノ字ヲ用ユルヲ向[○]外[○]等[○]ト云フ即チ一ヲ述ヘ他ヲ略スルノ語法ナリ若シ單ニ日本ト云フキハ日本ノミニ限レ^レ等ノ字ヲ加フレハ支那獨乙ノ如キ總テ獨立ノ帝國ヲ包含スルコトニナル文章等ニハ尤モ注意スヘキコト

ス
次ニ同喻合作法ノ例ヲ舉ケン合作法ハ因ヲ先ニシ宗ヲ後ニ
シテ其脈絡貫通スルヤ否ヤヲ確ムルノ法ナリ故ニ之ヲ先因
後宗ノ合作法ト云フ

因 諸○獨立帝國ナルモノハ
宗 皆○其國律ヲ以テ其國律ヲ犯ス外國人ヲ處スルコト
ヲ得ヘシト見ヨ

同喻 猶魯國等ノ如シ

諸○皆○ノ文字ヲ入ル、ハ新因明ノ法ニシテ三段法ノ字眼ナリ
次ニ異喻離作法ヲ舉ケン離作法ハ全ク反對ノモノヲ以テ作
法ヲ爲シ其濫ル、ヤ否ヤヲ確ムルノ法ナリ
諸○其國律ヲ以テ其國律ヲ犯ス外國人ヲ處スヘキニアラ

サルモノハ皆○獨立ノ國ニ非スト見ヨ
猶印度等ノ如シ

右ノ如キ正量ヲ作り更ニ同喻合作法ト異喻離作法トヲ以テ
表裏ヨリ之レヲ確カメ脈絡貫通シテ一點ノ瑕瑾ナキモノ即
チ真正ノ能立ナリ
次ニ古因明五段法ノ例ヲ舉ケン

宗 日本等ハ其國律ヲ以テ其國律ヲ犯ス外國人ヲ處ス
ルコトヲ得ヘシ

因 獨立ノ帝國ナルカ故ニ
喻 魯國ノ如シ

合 魯國ハ獨立ノ帝國ナリ日本モ獨立ノ帝國ナリ
結 此故ニ日本ハ其國律ヲ以テ其國律ヲ犯ス外國人ヲ

處スルコトヲ得ヘシ
 斯ノ如ク宗因喩ノ次ニ合結ノ二ヲ加ヘ五段法トス極メテ複
 雜ナルモノナリ新因明ハ前述ノ如ク諸皆等ノ字ヲ以テ他ヲ
 等畧シ三段法トス
 又試ミニ西洋ロジックノ一例ヲ舉ケ因明ノ意義ト對照スレハ
 左ノ如シ

大前提

獨立ノ帝國ハ其國律ヲ以テ其國律ヲ犯ス外國
能別

小前提

日本等ハ獨立ノ帝國ナリ
有法 故ニ日本等ハ其國律ヲ以テ其國律ヲ犯ス外國
能別

斷案

人ヲ處スルコトヲ得ヘシ

ロジックノ論法ハ粗ホ斯ノ如クナルヘシ而テ此斷案ハ殆ント

古因明ノ結ニ恰當ス要スルニ宗ト因トノ二ニシテ喩ヲ用ヒ
 ス故ニ因明家ヨリ言ヘハ缺減過中無体缺ノ過アリ何トナレ
 ハ三支具ハラサルヲ以テナリ
 因ミニ曰クロジックハ西洋紀元前三百二十餘年希臘ノ大賢ア
 リストトール氏カ創設スル所蓋シ當時アレキサントルカ印
 度ヲ征シ學士ヲ引見シテ其學脈ヲ本國ニ傳ヘタルナラン故
 ニ其斷案ノ如キハ古因明ニ似タル所アリ或ル學者ハロジック
 ハ一個ノ究理術ニシテ論理術トシテハ欠クル所アリ因明ハ
 推演法ヲ具備シタル論理術ナリト云ヘリ其是非ハ茲ニ論ス
 ル所ニアラス姑ク參考ノ爲ニ一言スルノミ
 次ニ本量ニ就キ敵者能違ノ量ヲ例示セン
 宗 日本等ハ其國律ヲ以テ其國律ヲ犯ス外國人ヲ處ス

ルコトヲ得サルヘシ
 因 其刑法慘酷ナルカ故ニ
 此ノ如キ能違ノ量ヲ作ルキハ他隨一不成ノ過トナル何トナ
 レハ此因即チ刑法慘酷ト言フコトハ日本ニ在テハ之ヲ許サ
 ス又之レヲ受ケス故ニ一方許サ、ル過トナリ折角能違ノ立
 量モ徒ラニ似能破トナル(他隨一不成ノコトハ因ノ十四過ニ
 於テ細説スヘシ)
 三支作法ノ大畧ハ前述ノ如シ尙參考ノ爲メ因明家ノ常語一
 ニヲ示サン
 同シク勝チ拔ケタル因明ニモ二種アリ

碎邪因明—正則ニシテ眞能立ノ善キ言論ヲ用ヒ勝チ制シタルヲ云フ
 引信因明—過チノアル因明即チ變則ニシテ似能立似能破ナカラ敵チ制シタル場合ヲ云フ所謂隨
 機ノ頓活ナリ

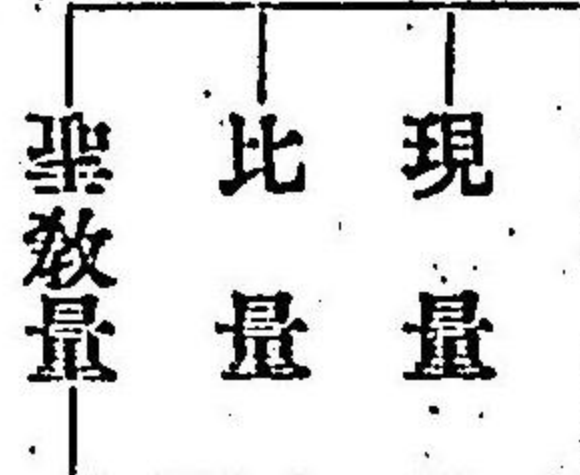
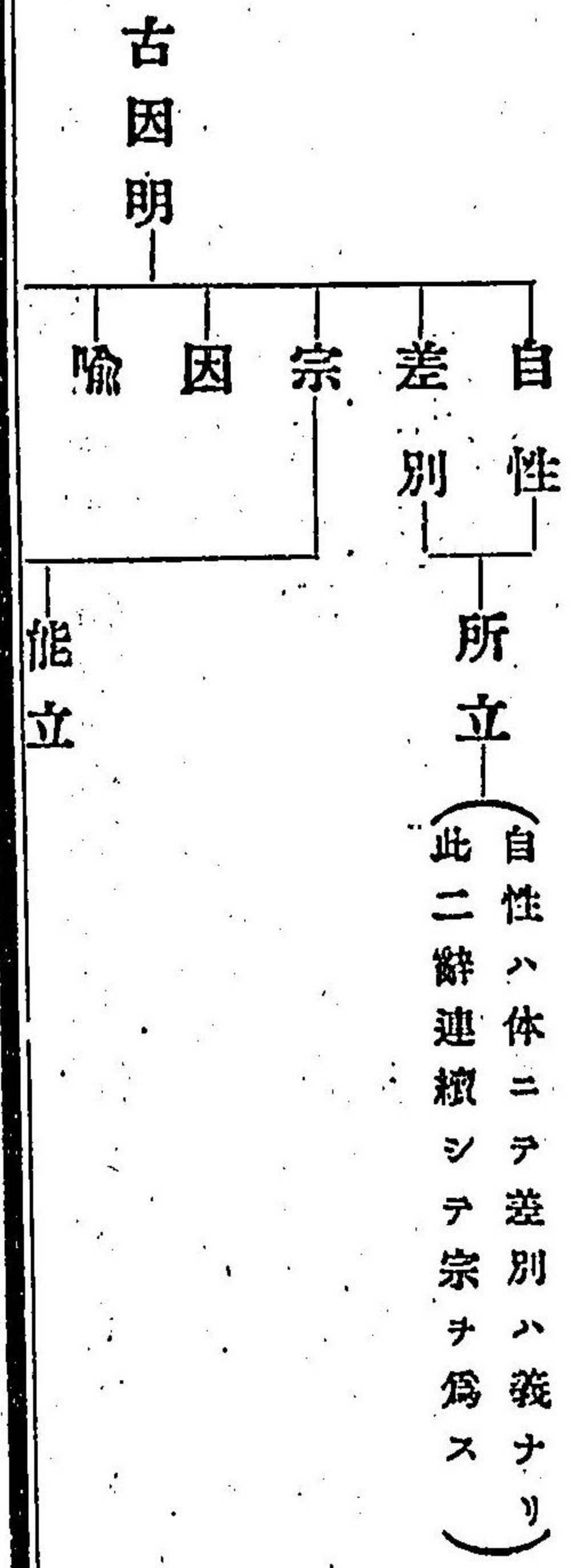
又因明家ノ常語ニ性相門因明門ト云フコトアリ
 性相門 是レハ臨機ニ宗因喩ヲ前後セシメ或ハ一ヲ欠
 キ又ハ二ヲ欠キタル等其順序一定セサル立論
 ヲ性相門ト云フ
 因明門 是ハ必ス宗ヲ先ニシ因ヲ次ニシ喩ヲ後ニシ規
 則正シク三支ヲ具備シタル立論ヲ因明門ト云
 フ

(四) 能立能破

能立トハ立者ノ量ヲ云ヒ能破トハ敵者ノ量ヲ云フ而シテ其
 立量完全無過ナルモノヲ眞能立トシ其完全セサル種々ノ過
 アルモノヲ似能立トス敵者ノ量ニ在テモ立者ト同ク作法總

テ完全ナルモノヲ真能破ト云ヒ過アルモノヲ似能破ト云フ
以下進ンテ能立能破ノ細別ニ就キ詳説セン
能立

能立ヲ説明スルニ當リ先ツ古因明ノ組織ヲ述フヘシ古因
明ニテハ八能立ト稱シ自性ト差別トノ二ヲ所立トシ宗、因、
喻、現量、比量、聖教量、ノ六ヲ以テ建立ノ具トス圖解セハ左ノ
如シ



新因明ニテハ自性差別ノ連續シタル宗体ハ立ラル、モノ
ニシテ因、喻ハ能ク立上ルモノナリ而シテ現量、比量ハ其道
具ナリ故ニ之ヲ立具ト云フ圖解セハ左ノ如シ

凡ソ能立即チ真正ノ量ヲ造ンニハ先ツ其議論ノ体性ヲ定

メ豫メ主トスル所ノ論法ヲ正確ニシ自ラ其過ヲ避ケ而ル
後發表セサルヘカラス左ニ其論法及ヒ句類ノ分別過失ノ
種類ヲ概陳スヘシ

宗二類

表詮	ロジックノ肯定命題又ハ陽性命題ニ當ル
遮詮	ロジックノ否定命題又ハ陰性命題ニ當ル

表詮トハ宗ノ後陳即チ賓辭ニ於テ積極的ニ物事ヲ云ヒ
顯スノ論法ヲ云ヒ遮詮トハ之レニ反シ消極的ニ物事ヲ
遮遣スル論法ヲ云フ左ニ其一例ヲ示サシ

表詮論法ノ例

物質ハ必ス勢力アルヘシ
理學ノ實驗ナルカ故ニ
神經作用ノ如シ

斯ノ如ク宗ノ後陳即チ賓辭ニ於テ事柄ヲ表彰シ因喻モ
亦總テ表詮ノモノヲ用ユ

遮詮論法ノ例

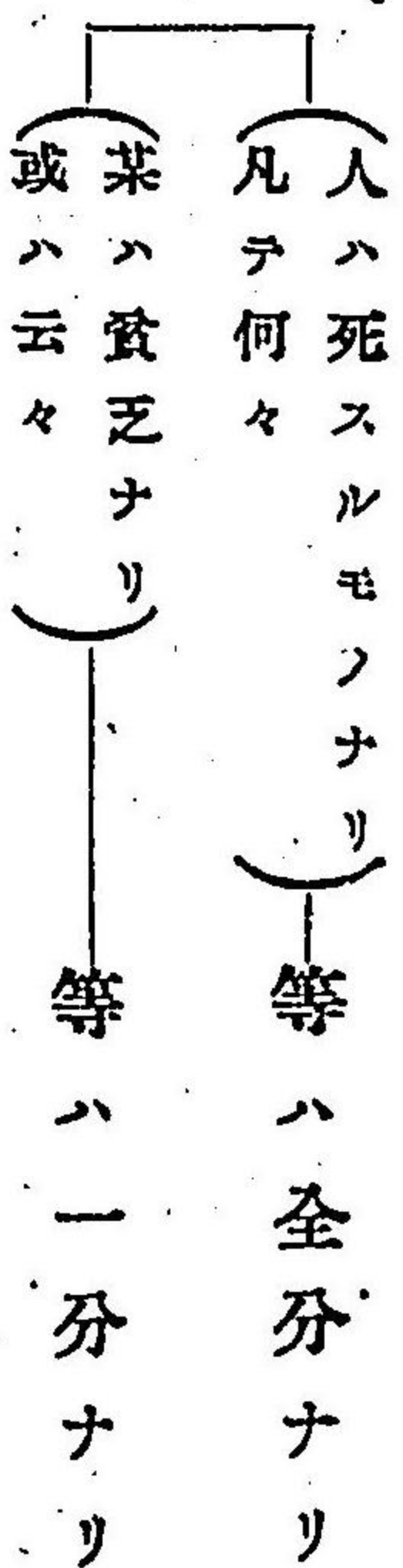
造物主ハ存在スルモノニアラサルヘシ
論理ト實驗トヲ以テ知ルヘカラサルカ故ニ
龜毛兎角ノ如シ

斯ノ如ク宗ノ後陳即チ賓辭ニ於テ事柄ヲ遮遣シ因喻モ
亦無表ノモノヲ用ユ

因ミニ曰因明家カ言語ヲ遣フニナルヘシ、ナルヘシ、アラ
サルヘシ、ト云フハ敵ニ鋒先ヲ鋭ク視センカ爲メナリ
又論ヲ爲スニハ初メヨリ全分ト一分トノ區別ヲ定メ全分
ノ立論ハ終始全分一分ノ立論ハ終始二分ヲ貫カサルヘカ

ラス其例左ノ如シ

全分—ロジックノ大量命題又ハ周布命題ニ當ル
 一分—ロジックノ小量命題又ハ不周命題ニ當ル
 全分トハ事物ノ一部ニ止マラス遍ク行キ涉リテ論スル
 ヲ云ヒ一分トハ之ニ反シ事物ノ一部ヲ指シテ論スルヲ
 云フ例セハ



立論ハ常ニ此區分ニ注意スヘシ若シ之ヲ混同スルトキ
 ハ直チニ過ヲ生シ似能ノ立破トナル
 又事物ヲ推演シテ理ヲ究ムルニ四句或ハ二句ノ分別法ア

リ左ニ其例ヲ舉ケン

四句分別

(互ニ寛狹及ヒ同異ノモノアルトキハ四句ヲ以テ分別ス)

獨立ニシテ帝國ニ非ス (米、佛、等ノ如シ)

帝國ニシテ獨立ニ非ス (現今ハナシ)

帝國ニシテ而モ獨立ナリ (日本、魯國等ノ如シ)

帝國ニアラス獨立ニ非ス (印度等ノ如シ)

二句分別

(單ニ一方ハ寛又ハ長一方ハ狹又ハ短ナルモノハ二句ヲ以テ分別ス)

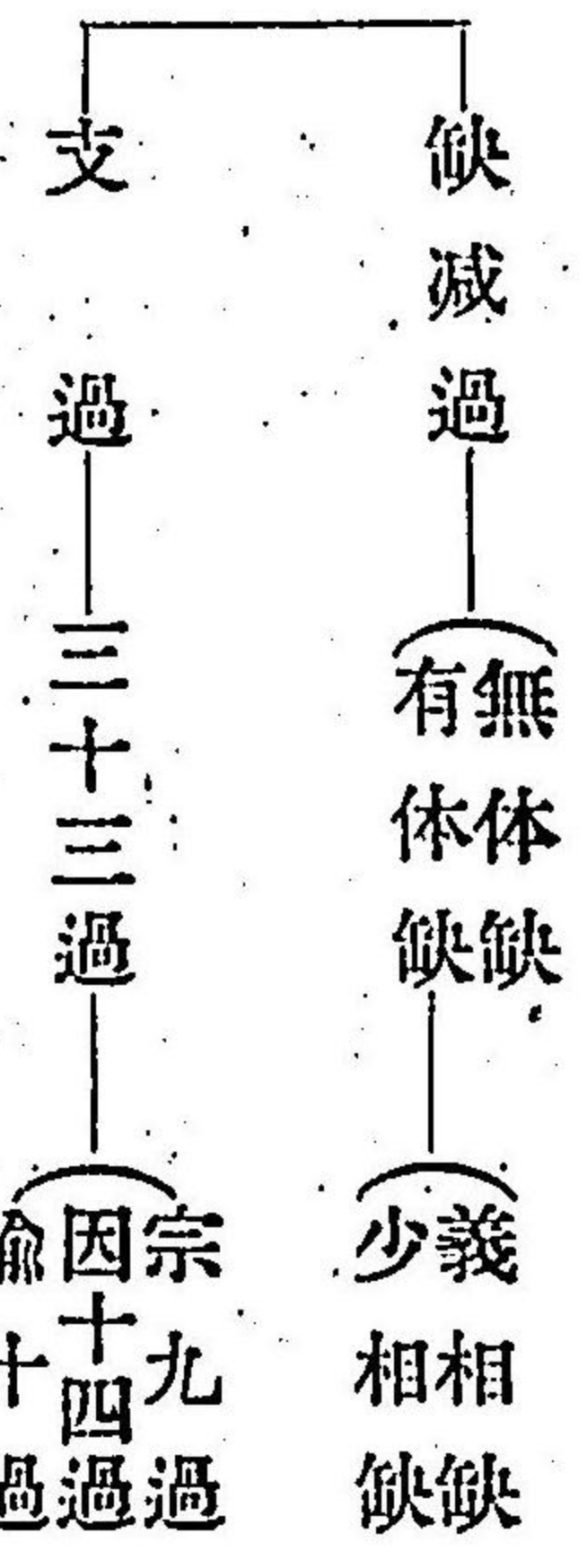
人間ハ必ス死スヘキモノナリ

死スヘキモノハ必ス人間ノミニ非ス

議論ノ目的物ニ就テ其黑白ヲ論スル片ハ總テ右ノ如ク
 四句或ハ二句ニ分別シテ其寛狹同異ヲ吟味シ然ル後立
 論スヘシ否ラサレハ詞ニ過ヲ生シ終ニ其論ハ似能ノ立

破トナル

立量ノ材料ニ數多アリト雖モ大畧右等ノ法則ニ據リ缺過支過等ノ過類ヲ避ケタルモノヲ眞能立ト云フ次ニ似能立ト稱スルハ眞能立ノ裏ニシテ前ニ述ヘタル法則ニ據ラス其立論ニ過チアルモノ即チ誤魔化シノ立量ヲ云フ其過類大別シテ二種少別シテ數多アリ左ノ如シ



缺減過ヲ分ツテ二トシ更ニ有体缺ヲ二分ス即チ前圖ノ如シ

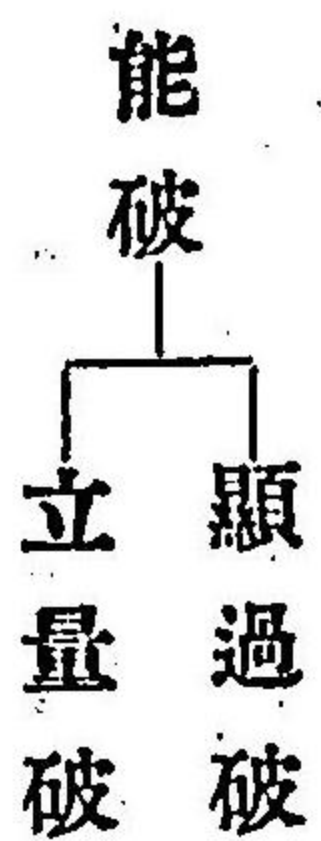
其一 無体缺トハ三支ノ体ヲ具備セサルモノ例ヘハ宗因ハ具ハルモ喩ノナキモノ又ハ宗喩ハ具ハルモ因ノナキモノ等總テ三支ノ内一支又ハ二支ヲ欠キタルヲ云フ其二 有体缺トハ三支ノ体ハ具ハルモ因カ宗喩ニ對シテ其義意ニ欠ル所アルモノヲ云フ更ニ有体缺ヲ分テ二トス

- 一 義相缺トハ因ノ三相カ宗喩ニ對シ共ニ義意(即チ相)ノ欠アルモノヲ云フ
 - 二 少相缺トハ因ノ三相ノ内宗又ハ喩ノ一方ニノ義意(即チ相)ノ欠アルモノヲ云フ
- 支過ノ三十三過ハ其説明頗ル複雑ナルノミナラス因明學中ノ要部ナレハ別ニ科目ヲ分チ後段ニ於テ説明スヘ

能破

シ

真能破トハ立者ノ過ヲ見出シテ論破スルヲ云フ二類アリ
左ノ如シ



顯過破トハ立者ノ過チヲ見出シ之ヲ破ルノ法ニシテ即チ
立者ノ論ニ就キ逐一其過チヲ摘發表顯シテ論破スルヲ云
フ
立量破トハ敵者カ能違ノ量ヲ造リ立者ノ論ヲ破ルノ法ニ
シテ即チ敵者ニ在テ更ニ言論ヲ構成シ之ヲ完全ニ成立セ
シメ自然ニ立者ノ論ヲシテ破壊セシムルヲ云フ

次ニ似能破トハ真能破ノ裏ニシテ敵者カ立者ノ論ヲ破ラ
ントシ却テ自ラ破ル、モノ即チ誤魔化シノ能破ヲ云フ其
過類ハ十四相似過類ノ部ニ於テ説明スヘシ

(五) 因有三相

因ハ三支ノ一ニシテ「ロジック」ノ所謂媒語ニ當ルモノナリ抑言
論ヲ構成スルニハ三支共ニ必要ナレト就中因故ノ働キ最モ
要用ニシテ因ニハ必ス三相ヲ備ヘサルヘカラス何トナレハ
凡ソ因ヲ明カニセハ必ス其果ハ明ラカナルモノナリ例ヘハ
物ヲ盜ムト云フ因ヲ明カニセハ其果タル罪セラルト云フ
コトハ明了ナリ圖示セハ左ノ如シ

一 遍是宗法性

(宗)

因三相

二 同品定有性

(同喩)

三 異品偏無性

(異喩)

一 遍是宗法性トハ遍ク是レ宗カ法タルノ性ニシテ因ノ義相カ遍ク宗ニ行キ渡ルコトヲ要スルノ意ナリ例セバ「生命アルカ故ニ」トノ因ハ宗ノ「人ハ死スヘキモノナリ」ニ必適セル相ヲ具フルモノタラサルヘカラサルナリ

二 同品定有性トハ同品ニ對シ因ノ義相カ定メテ含有セラ
ル、コトヲ要スルノ意ナリ例セバ「生命アルカ故ニ」トノ因ハ同喩ノ「一般ノ動物ノ如シ」ニ相違ナキノ相ヲ具フルモノタラザルヘカラサルナリ

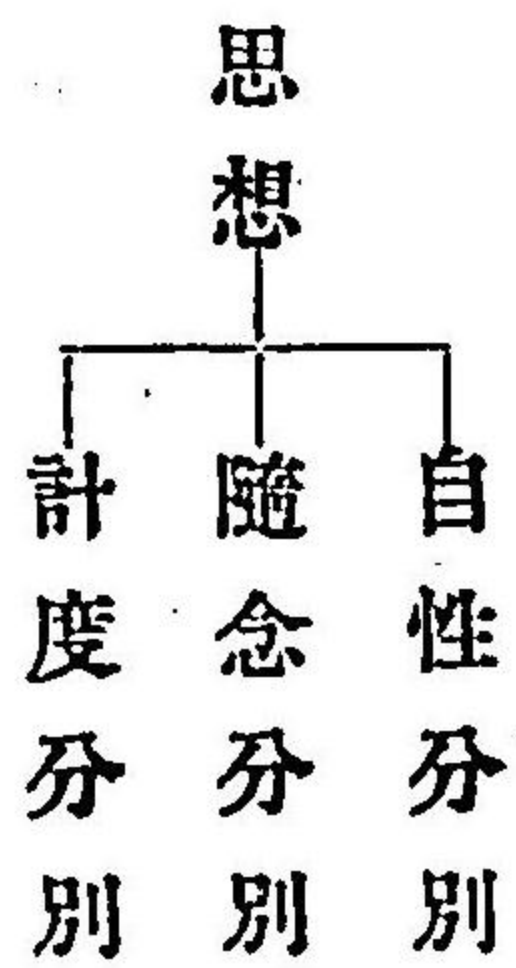
三 異品偏無性トハ品質全ク異ナリテ因ノ義相カ異喩ニ對シ皆無ナルコトヲ要スルノ意ナリ例セバ「生命アルカ故ニ」

トノ因ハ異喩ノ「一般ノ鐵物ノ如シ」ト全ク表裏反對ノ相ヲ具フルモノタラサルヘカラサルナリ

(六) 現量智 比量智

現量智比量智ノ説明ハ或ハ心理學ヲ聞クノ感アルヘシ因明ハ固ヨリ言論ノ方式ヲ主眼トスルモノナレモ思想ノ運用ニモ亦關係スルモノナレハ多少心理學ノ心得ヲモ要スヘシ故ニ聊カ其大体ヲ述ヘテ順次本章ノ分類ヲ説明セン
現量比量ハ能立能破ノ章段ニ於テ述ヘタル如ク言論ヲ構成スル所ノ立具ナリ茲ニ再言セハ即チ宗ハ立テラル、モノニシテ因喩ハ能ク立上ルモノ現量比量ハ其道具ナリ故ニ之ヲ立具ト云フ共ニ議論ヲ爲ス根本ノ智惠ナリ而シテ現量智ハ物

質ノ有様ヲ直前ニ指シテ証據ヲ舉ケ比量智ハ物質ノ直前ニアラサル他物ヲ以テ比例スル智恵ニシテ共ニ論理ノ思想ナリ今茲ニ人ノ思想ヲ大別スレハ左ノ三類トナル



- 一 自性分別トハ故意ノ分別ヲ用ヒス其對スル處ノ事物ヲ有ノ儘ニ分別ス即チ圓ハ圓角ハ角ト見ル如ク唯現量ナリ
- 二 隨念分別トハ眼耳鼻舌身ノ五識ニ經歷シタル過去ノ事物ヲ追念シテ起ス處ノ思想ナリ
- 三 計度分別トハ事物ニ對シテ苦樂好惡等ノ分別ヲ爲シ深

思計度スル所ノ思想ナリ

因明ニ云フ現量智ハ物質ノ有様ヲ直前ニ指シテ云フ所ノ唯現量ニシテ即チ前三類中ノ自性分別ニ當ル而テ此現量ニ定心散心ノ二類アリ定心現量トハ頗ル高尚ナル所ノ菩薩或ハ羅漢等ノ現量ニシテ所謂出世間ノ禪定心ヲ云ヒ散心現量トハ吾等凡夫ノ雜亂心ヲ云フ今茲ニ説ク所ノ現量ハ即チ凡夫ノ心量ナリ
現量智ヲ大別シテ三種トシ小別シテ數種トス圖示セハ左ノ如シ

相似生
超越生

非覆障所礙 (瓶中ノ水ヲ見ス推測シテ水ト云フカ如シ)

一非不見見

無障害

非隱障所礙

(物体アリテ礙ルニ非ス所謂狐狸ニ誑カサルト云フカ如ク障セラルハナ云フ)

非映障所礙

(日出テ月ヲ蔽ヒ月出テ星ヲ蔽フカ如ク一物ノ爲メニ一物映障セラルハナ云フ)

非惑障所礙

(神經ノ狂亂シテ有モノヲ無シトシ無キモノヲ有ルト思フ如キ境界ヲ云フ)

處極遠

(塲所極メテ遠キヲ云フ即チ東京ニ在テ長崎ニテ曾テ見タルモノヲ例スルノ類)

時極遠

(時間極メテ遠キヲ云フ即チ去年ハ此山ニ花カ咲キシトカ曾テ彼海ニ魚ヲ釣リシトカ云ノ類)

損極遠

(事物ノ損滅シタル後ノコトヲ云フ即チ此材木ハ曾テ美麗ナル家屋ナリシ此土ハ曾テ奇妙ナル陶器ナリシト云フノ類)

二非已思應思(類別ノ例ヲ要セス)

相錯亂

數錯亂

形錯亂

顯錯亂

業錯亂

三非錯亂境界

以上ノ類別ニ依リ非不見見ノ四種ヲ畧解セシ

一相似生トハ似テ生スルモノヲ云フ即チ影ヲ見テ必定シテ本体ヲ認ムルノ類ナリ例セハ天上ノ月水ニ映シテ生

スルカ如シ

二超越生トハ極メテ拔群ノモノヲ見テ心ニ認ムルヲ云フ

例セハ山林ニ一ノ大木アルヲ見テ其木種ヲ認メ一般ヲ

推演スルカ如シ

三無障害トハ現見シテ少シモ障害ノナキモノヲ云フ之ヲ

小別シテ四種トス即チ前圖ノ下ニ畧説スルカ如シ此四

種ノ障礙ヲ避ケタルモノ即無障害ナリ

四非極遠トハ現見シテ得ヘキモノヲ云フ之ヲ小別シテ三

種トス之レ亦前圖ノ下ニ畧説ス此三極遠ヲ離ル、モノ

真正ノ非極遠ナリ

非已思應思 已思ハ既往ニシテ應思ハ將來ノ事ナリ即チ讀
テ字ノ如シ既往ト將來トハ現量智ニ非サルナリ
非錯亂境界ヲ小別シテ五種トス其名目ハ前圖ノ如シ左ニ其
意義ヲ畧解セン

- 一 相錯亂トハ物質ノ姿ヲ見ルコトヲ過チタル場合ヲ云フ
即チ山上ヨリ溪谷ノ雲霧ヲ視テ水ト認ムルノ類彼ノ鹿
ノ熱渴シテ陽炎ヲ水ト思フカ如シ
- 二 數錯亂トハ一個ノモノヲ二個ト見又二ツノモノヲ三ツ
ト見ルカ如ク現實ノ數ヲ錯亂シテ見ルナリ
- 三 形錯亂トハ形狀ヲ錯亂シテ長ヲ短ト見圓ヲ角ト認ムル
惑亂チリ

四 顯錯亂トハ色ヲ錯亂シテ見ルヲ云フ即チ色目鏡等ニ支

配セラレ白ヲ黒ト見或ハ赤ヲ黃ト見ル如シ

五 業錯亂トハ業用即チ働キノ錯亂ヲ云フ自ラ舟車ニ在リ

テ其動クヲ忘レ却テ他人他物ノ動ケルト見ルカ如シ

以上不現見已思應思錯亂境界ヲ離ルモノ即チ真正ノ現量

智ナリ之ニ反スルモノヲ似現量ト云フ

比量智

比量智トハ既ニ述タル如ク直接ニ物ヲ見スシテ他物ヲ以テ
テ比知スルモノ即チ甲ノ既知ヲ以テ乙ノ未知ヲ推知スルヲ
云フ之ヲ大別シテ五種トス

相比量
体比量

業比量

法比量

因果比量

一 相比量トハ姿ノ一部分ヲ見テ全体ヲ推知スルモノ例セ
 ハ煙ノ立上ルヲ見テ其下ニ火アルヲ知リ或ハ鹿ノ角ヲ
 見テ鹿ノ全体ヲ比知スルカ如シ

二 体比量トハ甲ノ物体ヲ見テ乙ノ物体ヲ比知ス即チ甲ノ
 鹿ヲ見テ乙ノ鹿ヲ比知スルカ如シ

三 業比量トハ業キノ比量ヲ云フ例セハ甲ノ馬米三俵ヲ脊
 負ヘハ乙ノ馬モ然ルヘシト推知ス米國ニ於テ支那人一
 部分ノ働キヲ見テ支那人全体ノ入國ヲ拒絶セシカ如シ

四 法比量トハ法ヲ以テ善惡ノ所作ヲ比量ス即チ數理天理

倫理等ニ依テ其事ヲ取捨シ彼レハ惡事ヲ爲セルニツキ
 刑ニ處セラルヘシ彼レハ友トス可カラスト爲スカ如シ

五 因果比量トハ果ヲ見テ因ヲ知ルヲ云フ例セハ學者ヲ見
 テ學校ニ在リシトキ勉強シタルヲ知り病者ヲ見テ不攝
 生ナリシヲ推知スルカ如シ

以上ノ五種ニ適合シタルモノヲ真正ノ比量智ト云ヒ之ニ反
 スルモノヲ似比量ト云フ

又比量智ノ起ル場合ニ二種アリ其例左ノ如シ

同ヲ以テ同ヲ比ス

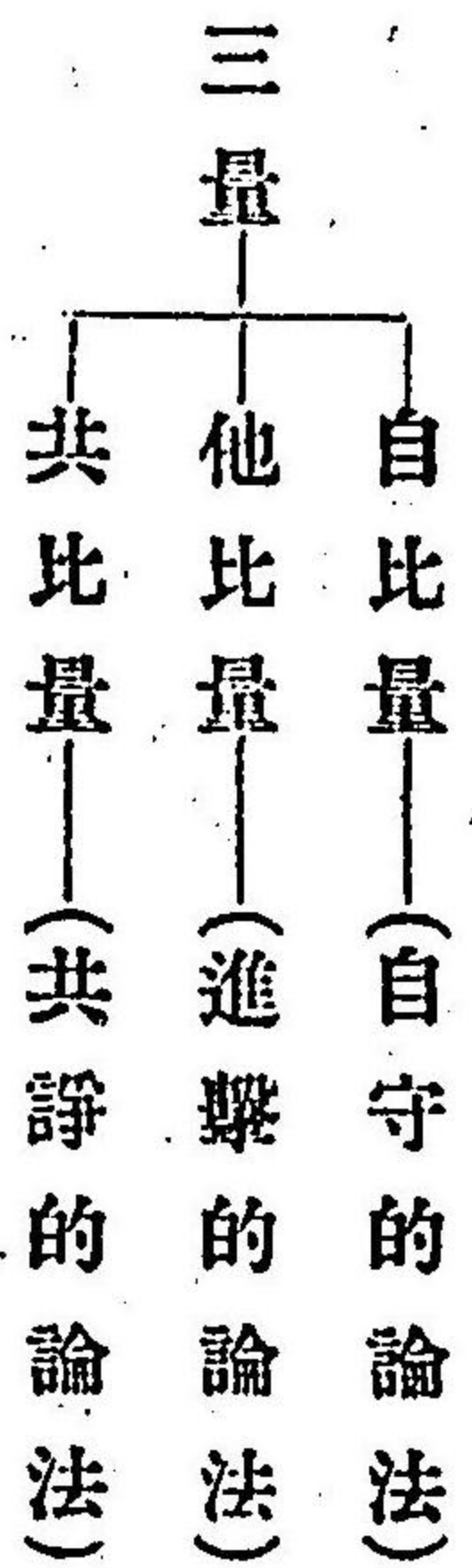
同ヲ以テ異ヲ比ス

一同ヲ以テ同ヲ比スルトハ既ニ前ニ述ヘタル如ク甲ノ鹿
 ヲ見テ乙ノ鹿ヲ推知スル等ノ場合ヲ云フ

二同ヲ以テ異ヲ比スルトハ例セハ畑ニ行キ麥ノ落ちタルヲ見テ雷ノ落ちタルヲ知リ或ハ大木ノ裂ケタルヲ見テ

又現量比量二智ノ外古因明ニテハ聖教量トテ聖賢ノ教ヲ據トスル立具アレモ新因明ノ立具ハ現比二量ニ止マルヲ以テ今ハ聖教量ノ説明ヲ畧ス

(七) 三量二因



三量ハ即チ論法ノ分類ナリ具サニ分別セハ自比量中尙ホ

自他共ノ三アリ他比量中ニモ共比量中ニモ同シク三アリ
 總シテ九量トナル今ハ畧シテ唯三量ヲ説明セン
 抑比量トハ比較ノ說明ニ由テ或ル事件ヲ量度スル方法ニ名
 ク換言セバ論法之レナリ凡ソ議論ヲ爲スニハ第一立者ト第
 二敵者ト第三立敵ノ議論ヲ判スル證義者ト三人以上ヲ要ス
 而シテ其立者ハ如何ナル主義ヲ執スルカ敵者ハ如何ナル主
 義ヲ取ルカ先ツ其体性ヲ極メザレハ其正不正ヲ判スヘキ様
 ナシ故ニ學問トシテ之レヲ研究スルニモ論場ニ立テ實際ニ
 應用スルニモ主トシテ立敵ノ論法性質ヲ確カムルヲ第一ノ
 用心ナリトス之レ即チ此三量ノ分類ヲ要スル所以ナリ但シ
 此分類方ハ西洋論理學ニハ曾テ見サル所ニシテ獨リ因明學
 ノ特色ナリト或ル講師ハ云ヘリ

一 自比量ノ論法ハ敵黨ノ方ニハ少シモ關係スルコトナク只
 自己ノ同主義者同黨派ノモノ、ミ許諾シ居ル事柄ニ就キ
 已レヲ守ル爲メニ論法ヲ組織スルモノナリ左ノ量ヲ舉ケ
 テ例セン
 吾神ハ恐怖スヘシ
 吾人ヲ苦シメ惱マスコトアリト許スガ故ニ
 許ス魔鬼ノ如シ
 是レハ耶蘇教者ガ佛教家其他ノ異宗者ニ對シテ立論スル
 モノニシテ自守的ノ論法ナリ故ニ之レヲ自比量ト云フ此
 論法ニハ必ス吾下カ許ストカノ字ヲ用ルヲ要ス此主眼字
 ヲ用ヒズ單ニ神ハ恐怖スヘシ或ハ人ヲ苦惱セシムルト云
 フキハ宗ニ所別不極成ノ過アリ因ニ他隨一不成ノ過アリ

喩ニ俱不成ノ過アリト知ルヘシ此過類ノ詳細ハ三十三過
 ヲ講スルニ當テ説明セン要スルニ此量ハ不得止ニ出ルモ
 ノニシテ敵ヲ進撃スル力モナク又敵ヲ誘フ力モナク他ノ
 二量ニ比シテ及バサルコト遠シト知ルヘシ
 二 他比量ハ前ノ自比量ニ反シ立者自己ノ主義ニハ少シモ關
 係ナク進テ敵ノ陣中ニ切入リ彼レカ曾テ許シ居ル事柄ヲ
 以テ而カモ彼レカ信シ居ル事件ヲ否難進撃スル論法ナリ
 左ノ量ヲ舉ケテ例セン
 汝カ執スル天帝ハ無始無終ニアラサルベシ
 能生ノモノト許スカ故ニ
 許スマリヤノ如シ
 是レハ佛教者カ耶蘇信者ニ對シテ立ツル處ノ量ニシテ汝

カ信スル天帝ハ能生ノモノナルガ故ニ無始無終ニアラサルベシト進撃ス即チ先方ノ道具ヲ以テ先方ヲ駁撃スルモノナリ故ニ之レヲ他比量ト云フ此論法ニモ亦必ス汝執許等ノ主眼タル言語ヲ要ス否ラサレバ自比量ト等シク宗因喩ノ三支ニ皆過ヲ生シテ其論法成立セズ

三共比量ハ前二者ノ如ク一方ニ偏セス自他共ニ許ス所ノ道具ヲ用フルノ論法ニシテ普通一般ノ立論ナリ左ノ量ヲ擧ケテ例セン

耶蘇ハ通常一般ノ人類ナルベシ

普通人種ノ体軀ニ異ナラサルカ故ニ

吾人ノ如シ

是レハ佛教者其他一般耶蘇教ヲ信セサルモノヨリ耶蘇教

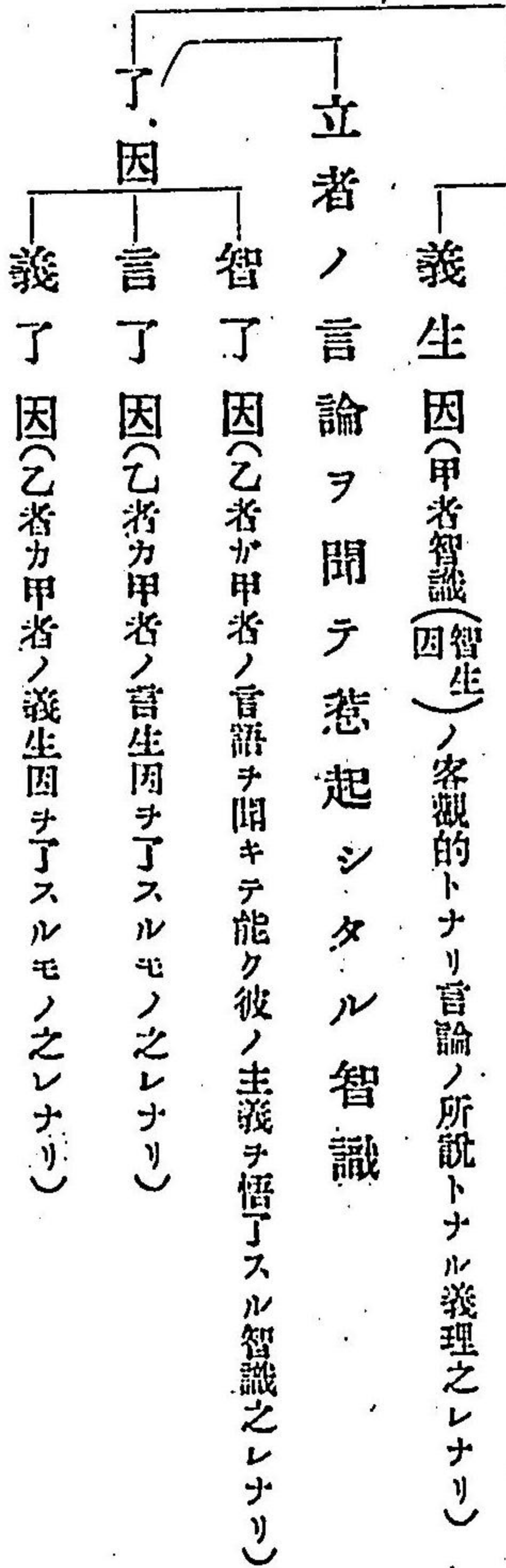
者ニ對スル立量ナリ今ヨリ十九世紀以前ニ猶太國ニ耶蘇ナル人出デ、一種ノ宗教ヲ弘メタルコトハ立敵共ニ許ス所ナリ又普通人種ノ体軀ト云フコトモ吾人ト云フコトモ皆世間一般ニ許ス所ナリ只爭フ所ハ耶蘇ハ通常ノ人間ナルカ將タ神子ナルカト云フノ一点ナリ即チ此論法ハ雙方共許ノ事柄ヲ以テ議論スル故之レヲ共比量ト云フ此論法ハ自比他比二量ノ他人ヲ誘引スルコト能ハサルモノト趣ヲ異ニシ克ク他ノ誤リヲ匡正シ正理ニ誘導スルモノニシテ三量中最良ノ論法ト云フベシ

根本立者ノ申ル言語

言生因(甲者已レカ持説ヲ主張セントスル宗因喩ノ言語之レナリ)

生因—智生因(甲者能ク事實道理ヲ考察シテ言論(智生)ヲ發起スル所ノ智識之レナリ)

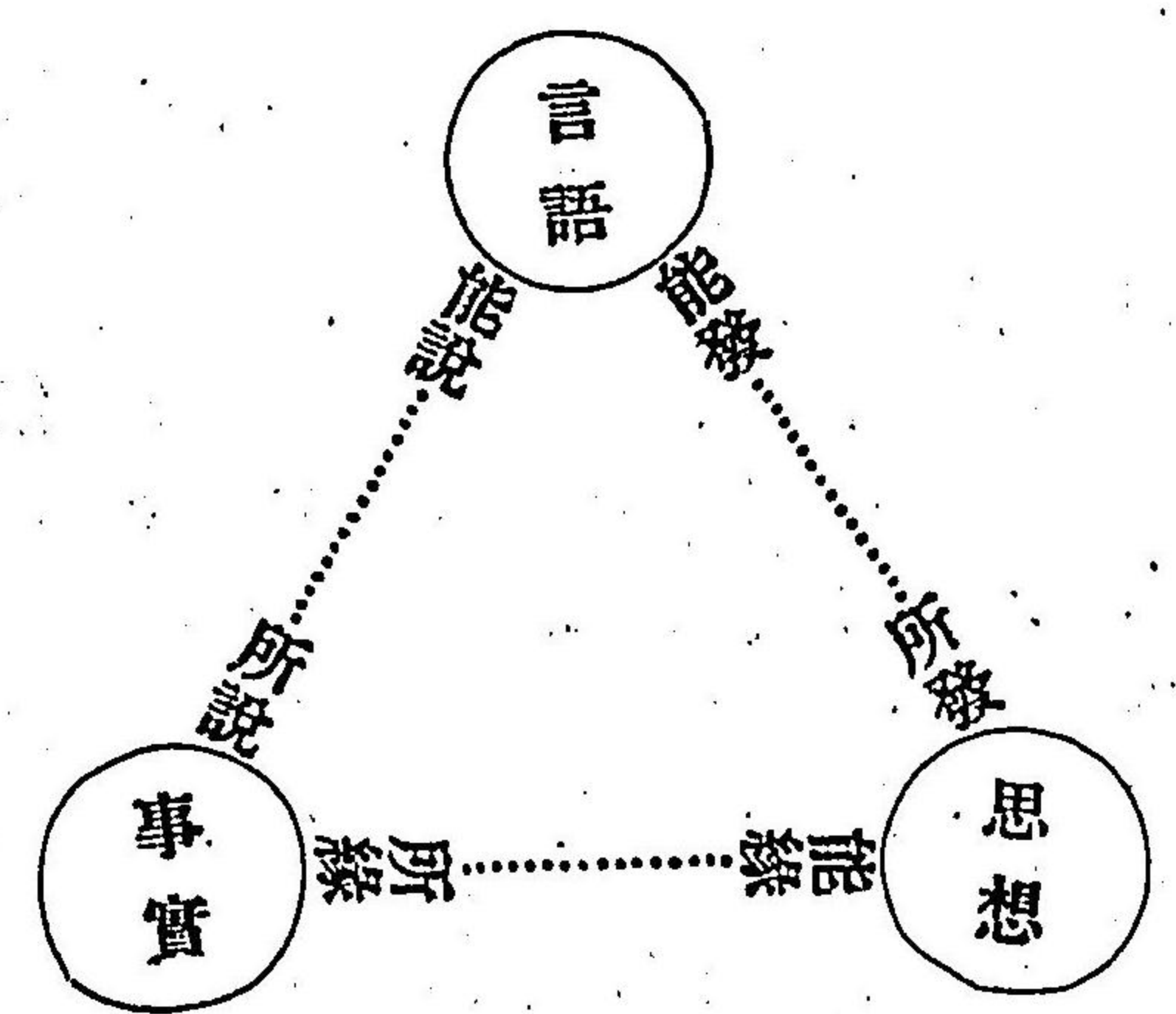
二因



凡ソ議論ハ立敵ニツノモノ相對シテ始メテ生ス故ニ此二ツノモノハ共ニ其意ヲ通セサルヘカラズ自他ノ意義相通シテ始メテ一段ノ議論完結ス若シ生因ナカランカ然ラハ了因起ルニ由ナシ了因起サランカ然ラハ立論ヲ悟了スヘキ様ナシ若シ敵者カ立者ノ主義ヲ悟了スルコトナキ時ハ其議論ハ無効ノ徒勞ナリ故ニ生因了因ハ相待ツテ議論ノ二要素トナルモノナリ換言セバ生因ハ種穀ノ萌芽スルカ

如ク立者ヲ種トシテ之レヨリ芽ヲ生スル有様ナリ了因ハ燈火ノ物ヲ照スカ如ク能ク其果ヲ顯スノ意ナリ其意義ハ前圖ノ下ニ略解ス
 斯ノ如ク六因ト分別スルモ大体議論ヲ決擇スルニ就キ直接ニ強大ノ効力アルモノハ立者ノ言論(言生因)ト敵者ノ智力(智了因)之レナリ故ニ大疏ニハ「分別生了雖成六因正意唯取言生智了由言生故敵證解生由智了故隱義今顯故正取二爲因相体」ト云ヘリ味フベシ
 抑モ因明ノ關係ハ言語思想事實ノ三ツヲ離ルヘカラス凡ソ言論アレバ必ス之レガ所說ノ義理即チ事實ナカルヘカラス仮令事實アルモ亦思想ナクンバ之レヲ宣說スルコト能ハサルヘシ茲ニ此三者ノ關聯スル有様ヲ圖示セハ左ノ

如シ



如斯事實アリテ始メテ思想ヲ生シ思想アリテ始メテ言語
 ヲ發シ言語アリテ始メテ事實ヲ顯ス三者ノ輪轉關聯スル

有様概テ皆此類ナリ
 因ミニ云フ此分析法ハ三段論法ノ中ニ就キ因ニノミ斯克
 分析シナガラ宗ト喻ハ何故分析セサルカト云フニ素ヨリ
 宗ニモ喻ニモ立敵ノ區別アリ然レモ議論ノ要ハ立敵一致
 セサル未決擇ノ事件ヲ論定シテ一ツニ歸セシムルヲ目的
 トナスモノナリ而テ論法三支ノ内特ニ因ノ効力最モ強大
 ナレバ所立ノ宗ヲ建立スル所ノ立具中ニ在テモ因ヲ正能
 立トシ喻ヲ助能立トス故ニ其正能立ノ因ニ就テ故ラニ此
 分類ヲ研究スルモノト知ルベシ

(八) 足目九句

九句因ハ足目ノ所造ナリ抑足目ハ印度古代ノ哲學者ニシテ

釋迦如來ヨリ數時代以前ニ出テタル聰明叡智ノ人ニシテ印
 度ノ文物ヲ盛大ナラシメタル俊傑ナリ素ヨリ大古ノ事ニシ
 テ史乘ノ徵スヘキモノ乏シト雖モ此人ガ因明ニ關シテ考ヘ
 出シタル規則ハ即チ九句因ト十四過類ナリ故ニ此二則ヲ呼
 テ足目ノ因明ト云フ
 九句因ハ三段法即チ宗因喻ノ三支中因ノ正不正ヲ判斷スル
 法ナリ抑因ノ職分ハ其同喻ヲ宗ノ方ニ引合セル(異喻ハ全ク
 反對ニ宗ヨリ引離ス)媒介者ニシテ彼ノ三支中最モ働キヲ要
 スル道具ナルヲハ前ニ既ニ述ヘタル如シ若シ因ニ些少ニテ
 モ過アルキハ三支ノ作法ハ全ク亂ル、ニ至ルヘシ故ニ因ノ
 正否ヲ探顯スルニ必要ナル九句因ノ研究ハ最モ注意セサル
 ヘカラサルモノトス請フ先ツ九句ノ名目ヲ標出シテ逐次解

說セシ

- 一 同品有異品有 (不定過)
 - 二 同品有異品非有 (真正)
 - 三 同品有異品有非有 (不定過)
 - 四 同品非有異品有 (相違過)
 - 五 同品非有異品非有 (不定過)
 - 六 同品非有異品有非有 (相違過)
 - 七 同品有非有異品有 (不定過)
 - 八 同品有非有異品非有 (真正)
 - 九 同品有非有異品有非有 (不定過)
- 九句ニ就キ古來二八正因四六相違諸餘不定ト云ヘリ即チ二
 八トノ二句ハ正シキモノニシテ四ト六トノ二句ハ相違

過アリ諸餘ノ一三五七九ノ五句ハ不定ノ過アリト知ルベシ
 既ニ陳ヘタル如ク因ハ同品ヲ宗ノ方ニ引合スル媒介者ナル
 カ故ニ其同品ト宗ト兩方ニ遍通スル事柄ナラサルヘカラス
 之レト同時ニ又異品ノ方ニハ全ク無關係ノ事柄ナラサルヘ
 カラス若シ聊カニテモ之ヲ誤ルキハ過失ノ因故トナル茲ニ
 有ト云ハ全部分ニ普ク行渡リタルヲ云ヒ非有ト云ハ全部分
 ニ全ク關係セサルヲ云ヒ有トハ其一部分ニハ關係シ一
 部分ニハ關係セサルヲ云フ因ミニ云フ品ノ字ハ此所ニテハ
 喩ト同一ノ義ニ解スヘシ
 是ヨリ進ンテ九句因一種毎ニ論式ノ例ヲ舉ケテ説明セン元
 來足目カ九句因ヲ稱ヘタルハ其當時種々ノ學派アリシ内聲
 論學派ハ聲ハ常住ナリト執シ勝論學派ハ聲ハ無常ナリト執

シテ争ヒタル際足目ハ勝論學派ニ屬スル人ナレハ無常ヲ眞
 理トシテ論式ヲ構成セリ其式ハ陣那ノ正理門論ニ出タリ然
 レモ今ハ一般ノ耳ニ入り易キヲ主トシ雲英晃曜師ノ論式ヲ
 用ヒテ説明スヘシ

第一 同品有異品有

宗 此寺院ノ敷地ハ我單有ナルヘシ

因 地券証アルカ故ニ

同喩 餘ノ單有耕地ノ如シ

異喩 村社敷地ノ如シ

此量ハ因故カ同喩ニモ異喩ニモ行渡リテ因ノ第三相ヲ缺キ
 異品ニ過ヲ生ス何トナレハ異品ハ宗ニ對シ非有ナラサルヘ
 カラサルモノナリ然ルニ村社敷地ハ單有ノモノアリ隨テ地

券証アルモノモアレバナリ即チ不定ノ過失トナル

第二 同品有異品非有

宗 此寺院ノ敷地ハ我單有ナルベシ

因 地券証アルカ故ニ

同喩 餘ノ單有耕地ノ如シ

異喩 海面ノ如シ

此量ハ正シクシテ無過ナリ何トナレハ海面ニ地券証ノアル

コトナシ又單有ノ場合斷シテナキモノナレハ異品カ宗因ニ

對シ全ク非有ニシテ同品ハ之レニ反シ能ク有トナレハナリ

第三 同品有異品有非有

宗 山林ハ租稅ヲ課スヘシ

因 收獲アルカ故ニ

同喩 耕地ノ如シ

異喩 不毛地及河池海ノ如シ

此量ハ異品カ一分無關係ナレモ一部關係スル處アリ何トナ

レハ河池海ハ必ス收獲ナキモノ、ミニ限ルヘカラス故ニ宗

因ニ對シ異品ガ有トナリテ不定ノ過失ヲ來ス

第四 同品非有異品有

宗 人ノ生前死後ハ必ス有ナルヘシ

因 比例シテ有ト知ルカ故ニ

同喩 龜毛兎角ノ如シ

異喩 昨日明日ノ如シ

此量ハ相違因ノ過アリ何トナレハ同品ハ宗因ニ對シ能ク行

渡ルヘキ事件ナラサルヘカラス然ルニ龜毛兎角ナルモノハ

決シテ有リ得ヘカラサルモノニシテ比例スヘキ事柄ニ寸毫
 モ關係ヲ有スヘキ意味ナケレハナリ之レニ反シ異品ハ全ク
 有リ得ヘカラサルモノヲ用フヘキ筈ナルニ昨日明日ノ如ク
 能ク比例シ得ヘキ事柄ヲ舉ケタリ故ニ同品ト異品ト全ク顛
 倒シテ相違因ノ過トナル

第五 同品非有異品非有

宗 此耕地ハ官有ナルヘシ

因 穀物ヲ培養スルカ故ニ

同喩 兵營敷地ノ如シ

異喩 工商家具ノ如シ

此量ハ同品ニ過アリ同品ハ必ス宗因ニ行渡ルヲ要スヘキ筈
 ナルニ兵營敷地ノ如キ耕地又ハ穀物培養ニ少シモ關係ナキ

モノヲ舉ケタルカ故ニ即チ非有トナリテ不定ノ過ヲ來ス

第六 同品非有異品非有

宗 人ノ生前死後ハ必ス有ナルヘシ

因 比例シテ有ト知ルカ故ニ

同喩 龜毛兎角ノ如シ

異喩 昨今明三日ノ如シ

此量同品ニ非有ノ過アルハ第四句ニテ説明シタル如シ而シ
 テ異品ノ内昨日明日ハ比量智ニシテ一分關係シ今日ハ現量
 智ニシテ一分非有トナル故ニ相違因ノ過ヲ來ス

第七 同品非有異品非有

宗 池沼ハ無税ナルヘシ

因 地券証アルカ故ニ

同諭 墓地ト海面トノ如シ

異諭 耕地宅地ノ如シ

此量ハ同品一分轉異品全轉不定ノ過アリ何トナレハ同品ノ墓地ハ地券アリテ無稅ナルニ依リ有トナリテ合法ナルモ海面ニハ地券アル場合ナシ故ニ一分非有ノ過ヲ生ス又異品ノ耕地宅地ニハ地券証アリテ有稅ヲ正當トスルモノナレハ全分遍ク關係シテ有ノ過失トナル

第八 同品有非有異品非有

宗 我國ノ皇統ハ長ク變スヘカラス

因 天祖ノ遺勅ナルカ故ニ

同諭 天壤ト北極トノ如シ

異諭 奕器ノ如シ

此量ハ正シクシテ無過ナリ尤同品中遺勅ニアラサル北極ヲ加ヘタルハ因ニ對シテ非有トナレモ全体ノ立量寬宗ニシテ本量ニ傷クヘキ隙ナケレハ決テ過失トナラス何トナレハ宗ノ皇統長不可變ハ極テ寬廣ナルモノユヘ北極ヲ入ルノ餘地アリ試ニ四句分別シテ寬狹ノ區別ヲ示スヘシ

四 寬因狹宗 不定 (寬因狹宗ハ因カ宗ノ外ニ溢ル故ニ過トナル)

狹因寬宗

寬因寬宗

狹因狹宗

無過

(狹因寬宗ハ狹キ因故ヲ以テ寬宗ノ一部分ヲ成スル故過トナラス寬因寬宗狹因狹宗ハ無論變方相侵スコトナシ)

第九 同品有非有異品有非有

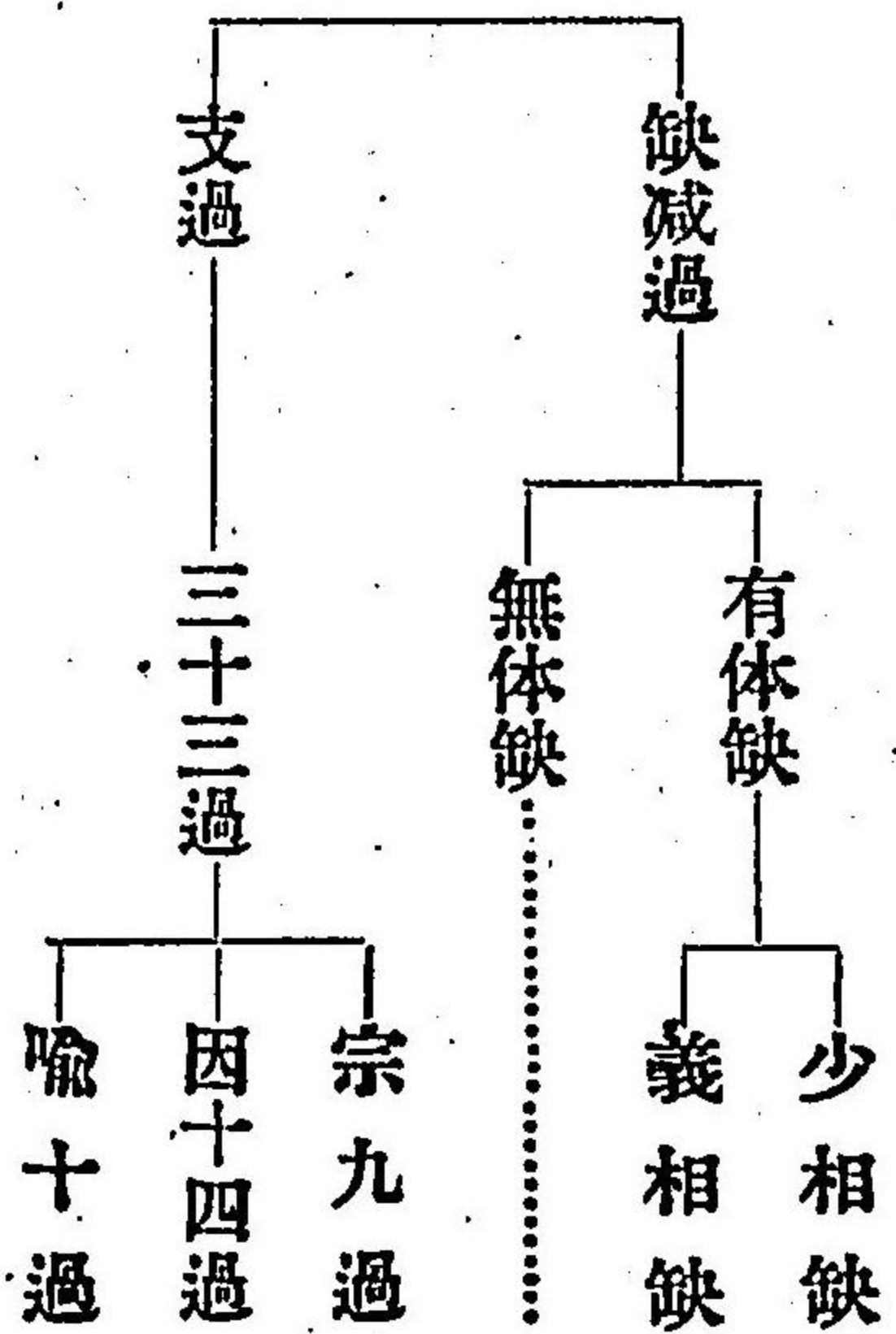
宗 廣島ハ皇國上等ノ都會ナルヘシ

因 師團アルカ故ニ

同論 三府ノ如シ
異論 諸縣ノ如シ

此量ハ同品異品共ニ一分ノ過アリ何トナレハ同品ノ三府中
東京大坂ニハ師團アルニ依リ有ナルモ京都ニハ師團ナキニ
依リ非有トナル又異品ノ諸縣中師團ナキモノハ非有ナルモ
熊本宮城等ノ如キ師團アルモノ少ナカラス之等ハ即チ有ト
ナル故ニ之ヲ俱分不定ノ過トス
以上九句因ノ概略ヲ舉ク之レニ因リ立論ノ正不正ヲ識別シ
思想ヲ練磨セハ蓋シ多少ノ効アラン
上來十二章段ノ過半ヲ陳ヘタリ是ヨリ過誤ノ分類法ニ就テ
講述スヘキ場合トナレリ抑因明學ハ破邪顯正ヲ目的トスル
勿論ナレモ其研究方ニ至テハ專ラ過誤ヲ避クル事ヲ主眼ト

ス其意他ナシ立論ニ於テ自己ノ過失ヲ避クルヲ得ハ其論ハ
期セシテ眞能立トナル可ケレハナリ而シテ其過類ヲ大別
セハ缺過支過ノ二類トナル圖示セハ左ノ如シ



此二類中第一ノ缺減過ト稱スルハ例ヘハ宗ハ告白シタレモ
因ヲ陳ル事ナク或ハ因故ハ用ユルモ諭ヲ引テ敵ヲ満足セシ
ムル事無キモノ又ハ三支ノ言語ハ缺減無キモ其義理ニ於テ

缺点アルモノ等ヲ云フ即チ前章能立能破ノ説明中便宜ニ因
リ其大畧ヲ陳ヘタルハ今ハ直チニ第二ノ支過即チ三十三過
ヲ順次ニ講述セン因ミニ云三十三過ノ研究ハ因明中最モ重
キヲ置ク處ニシテ古來此作法ノミヲ以テ一ノ學科トシ學徒
ニ研究セシメタルモノ亦少ナカラス

(九) 宗九過

此過類ハ即チ三支中第一ノ宗ニ屬スル過失ナリ其名目左ノ
如シ

- 一 現量相違
- 二 比量相違
- 三 自教相違

陳那所立

- 四 世間相違
- 五 自語相違
- 六 能別不極成
- 七 所別不極成
- 八 俱不極成
- 九 相符極成

天主所立

圖中前ノ五過ハ印度文學隆盛ノ時ニ當リ博識雄辨ヲ以テ五
天主論師ノ所敵ナカリシ陳那論師ノ所立ニシテ後ノ四過ハ
天主論師ノ所立ナリ天主ハ陳那ノ門人ニシテ稀有ノ英才最
モ論理ニ巧ミナリ陳那ノ新因明ヲ完成シタルハ多ク天主ノ
功ナリト云フ而シテ其過類ノ性質ヲ大別セハ前五過即チ陳
那ノ所立ハ既ニ組織シ得タル宗ノ上ニ就テ或ハ事實或ハ論

理或ハ輿論或ハ自教或ハ自語ニ相違スル處ノ過失ヲ擧ケタルモノニシテ後ノ四過即チ天主ノ所立ハ未タ宗ノ出來上ラサル以前即チ其組織方ニ就テ過誤ヲ調フルニ在リ之レ即チ天主ガ陳那ノ因明論ニ一步ヲ進メタル處ノ苦心ヲ見ルニ足ルヘキナリ以下順次ニ説明セン

第一現量相違

此過誤ハ事實相違ト云フノ意ニシテ所謂實驗ニ違フタル事ハ云フ可ラス實驗ノ事實ハ爭フ可ラストノ原理ニ背キタル過失ナリ例セハ蛇ハ足有ルヘシ能ク歩行スルカ故人類ノ如シト云フガ如キ既ニ現量上ニ在テ事實ニ違フタル立量ナルカ故ニ如何ナル因縁ヲ用ルモ之レヲ成立セシムル事能ハサルナリ之レヲ現量相違ノ過チト云フ

第二比量相違

此過誤ハ論理矛盾ト云フノ意ニシテ假令實驗セサルモ正確ナル理由例証アルモノハ動ス可ラストノ原理ニ背キタル過失ナリ凡ソ世界萬有ハ悉ク實驗ニ據ル可キモノニ非ス真理ハ實驗ノ外ニモ必ス存ス可キモノナリ故ニ實驗ノ及ハサル處ハ道理即チ論理ノ推續ニ據リ之ヲ確カメサル可ラス之レ即チ比量智ノ必要ナル所以ナリ然ルニモ拘ハラス立量シテ(吾父ハ死セサル可シ)ト云フガ如キハ即チ比量相違ノ過失ナリ何トナレハ實際未タ吾父ノ死シタル事無キモ一般人類ハ皆死ス可キヲ以テ正確ナル真理トス而シテ吾父モ亦人ナレハ必ス死ス可キハ論理思想ノ動カス可ラサル推續順序ナリ故ニ之レニ違フ立量ハ比量相違ノ

過失ヲ免カル、事ヲ得ス

第三自教相違

此過誤ハ自家撞着ト云フノ意ニシテ所謂自家ノ教義ヲ奉信シ之レヲ依憑トセサル可ラストノ原理ニ背キタル過失ナリ例セハ耶蘇教者ニシテ(來世ノ苦樂ハ神ノ干涉スヘキモノニ非ス)ト云ヒ佛教者ニシテ(因果ノ法則ハ確實ナルモノニ非ス)ト云フガ如キ立量ヲ爲サンカ共ニ自家ノ教義ニ相違セル立宗ナルカ故ニ之レヲ自教相違ノ過チト云フ

第四世間相違

此過誤ハ輿論相違ト云フノ意ニシテ所謂時ノ輿論ニハ因循セサル可ラス背反ス可ラストノ原理ニ背キタル過失ナリ例セハ邊屈ナル異常ノ人アリテ(長壽ハ願フ可キモノニ

非ス)ト云ヒ又ハ(美食ハ厭フ可シ)ト云フガ如キ立論ヲ爲スト假定セヨ世上ニハ或ハ厭世家等ニシテ實際如斯思想ヲ懷クモノアルモ之レハ自己一人ノ思想ニシテ社會多數ノ人ヲシテ之レニ服從セシムル事能ハサル可シ故ニ如斯立宗ヲ世間相違ノ過チト云フ
然レハ此過誤ニ就テハ故ラニ注意ス可キ事アリ元來因明ノ總宗ハ違他順自ヲ以テ正當ナル目的トスルモノナレハ徒ラニ輿論ニ背反スルヲ恐ル、時ハ立論ノ期無クシテ多數ノ愚論ニ服セサル可ラス如斯ハ決シテ此學ノ目的ニ非ス世間相違トシテ避ク可キハ天下一定ノ輿論ニシテ永遠動カス可ラサルノ真理ニ背反スルモノヲ云フノミ假令多數ノ說ト雖ハ之レヲ論破シテ真理ヲ顯揚スヘシト認ルモ

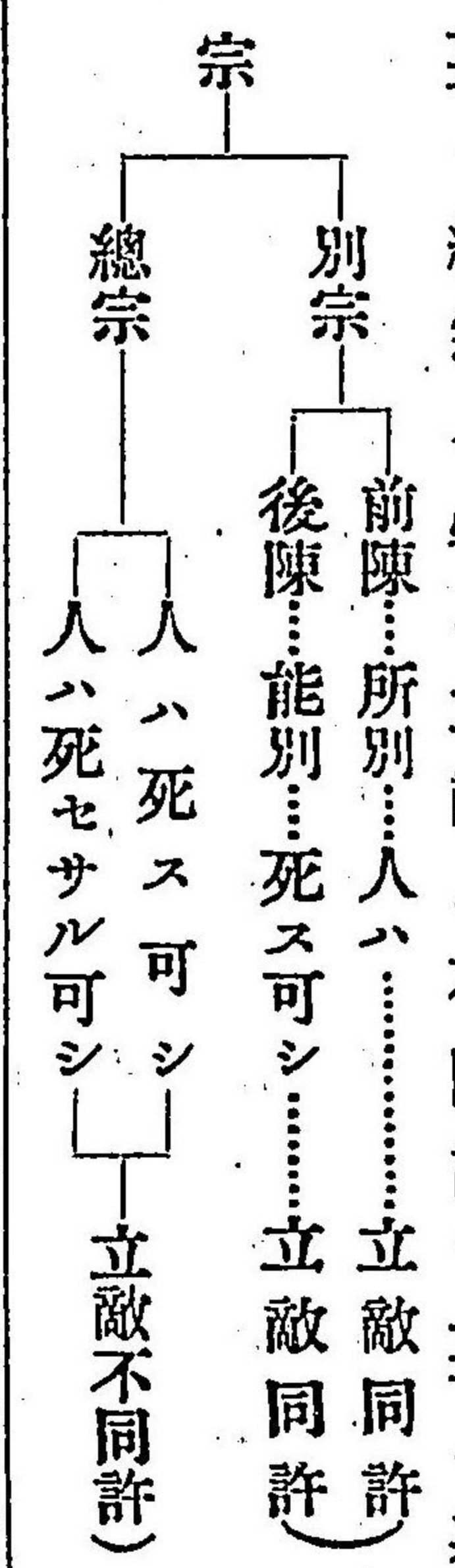
ノハ決シテ之レヲ避クルヲ要セス尤如此場合ニハ敵ノ反
 駁ヲ免カル、爲メニ一ツノ簡別語ヲ用ユ可シ此簡別語ヲ
 用ル時ハ世間相違ノ過ヲ離ル可シ今二三ノ例ヲ示セハ茲
 ニ天文學者アリテ地動說ヲ主張セントセハ(學理ノ成蹟ニ)
 據レハ宇宙ハ天靜地動ナル可シト云フガ如キ又唯心論者
 アリテ心外無物ヲ主張セントセハ(哲理ニ據レハ)宇宙ハ唯
 心無物ナル可シト云フガ如キ或ハ耶蘇教者ニシテ拜神ヲ
 避ントスル時ハ(耶蘇ノ教義ニ據レハ)神佛ハ拜ス可ラスト
 云フガ如ク簡別ノ語ヲ用レハ世情ニ違フ事モ亦立論スル
 ヲ得可シ取捨ノ間ニ於テ克ク意ヲ用ヒハ誤少カル可シ

第五自語相違

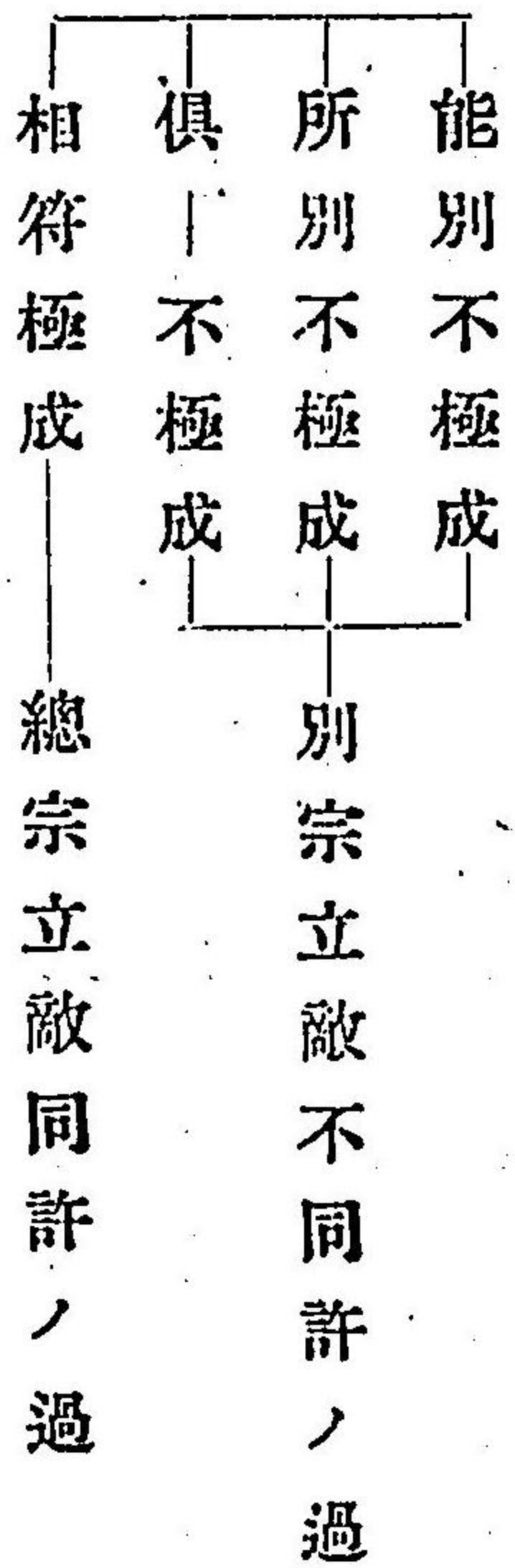
此過誤ハ前後矛盾ト云フノ意ニシテ所謂前後撞着スルモ

ノハ總テ正確ト云ヒ難シトノ原理ニ背キタル過失ナリ前
 後撞着トハ即チ前陳ト後陳トノ意義撞着スルヲ云フ例セ
 ハ(吾母ハ石女ナリ)或ハ(鐵瓶ハ土塊ナリ)ト云フガ如ク其命
 題ニシテ前後ノ兩名辭符順セサルヲ以テ之レヲ前後矛盾
 即チ自語相違ノ過チト云フ

以下將ニ説明セントスル處ノ四過ハ陳那所立ノ五過ト其趣
 ヲ異ニスルヲ以テ再ヒ其名目ヲ舉ケ總別何レニ屬スル過失
 ナルカヲ判明ス可シ抑因明ノ規則タル別宗ハ必ス立敵ノ同
 許ヲ要シ總宗ハ必ス立敵ノ不同許ヲ要ス其趣左ノ如シ



如斯別宗ハ前陳後陳共ニ立敵ノ同ク許ス可キ道具ヲ用ヒ總宗ハ必ス立敵ノ反對ス可キ立論ヲ爲サ、ルヘカラス之ニ反スルモノ即チ能別不極成以下ノ四過トナル更ニ其所屬ヲ區別セハ左ノ如シ



右ノ如ク前三過ハ別宗ニ就テ立敵同許ナラサル可ラサルニ却テ不同許ノ道具ヲ用ヒタルヨリ生スル過失ニシテ後ノ一過ハ總宗ニ就テ立敵不同許ナラサル可ラサルニ却テ同許ノ事柄ヲ以テ立量シタル過失ナリ以下順次ニ之レヲ説明セン

第六能別不極成

是ハ能別即チ後陳ガ敵ノ許サ、ル道具故其宗成立セサルナリ語ヲ替ヘテ云ヘハ後陳不同許ノ過ト云フ例セハ西洋學者ガ洋語ヲ解セザルモノニ對シ(人心ヲ支配スルモノハ^(宗)レリ^(教)ジョンナリ)ト云ヒ或ハ耶蘇教者ガ耶蘇教ヲ知ラサル人ニ對シ(萬物ハ獨一眞神ノ造化ナリ)ト云ガ如キ敵者ニ在テ所別即チ前陳ノ人心支配及ヒ萬物ト云フ事ハ解シ得ルモ能別ノ^(宗)レリ^(教)ジョン及ヒ獨一眞神トハ如何ナル事ナル歟解スル能ハサルニ依リ之レヲ許サス故ニ折角ノ立論モ徒勞ニシテ其効無シ故ニ之レヲ能別不極成ノ過失ト云フ

第七所別不極成

是ハ所別即チ前陳ガ敵ノ許サ、ル道具ニシテ其宗成立セ

サルナリ語ヲ換ヘテ云ヘハ前陳不同許ノ過ト云フ例セハ
洋語ヲ解セサル人ニ對シ(哲)ふいろそふ(學)ハ諸學ノ王ナリト
云ヒ或ハ耶蘇教ヲ知ラサル人ニ對シ(真神)ノ末日審判ハ公
明正大ナリト云ガ如キハ前ノ能別不極成ト全ク反對シ所
別即チ前陳ガ敵者ニ通セサル爲メ敵者之レヲ許サス徒勞
ノ立論トナル故ニ之レヲ所別不極成ノ過ト云フ

第八俱不極成

是ハ前後兩陳共ニ敵ノ許サ、ル道具ニシテ俱ニ成立セサ
ルナリ語ヲ換ヘテ云ヘハ前陳後陳不同許ノ過ト云フ例セ
ハ洋語ヲ解セサル人ニ對シ(論理學)ろじつくハふいろそふ(哲)ノ楷
梯ナル可シト云ヒ或ハ耶蘇教ヲ知ラサル人ニ對シ(真神)ハ
末日審判ノ主權者ナル可シト云フガ如キ前陳後陳共ニ敵

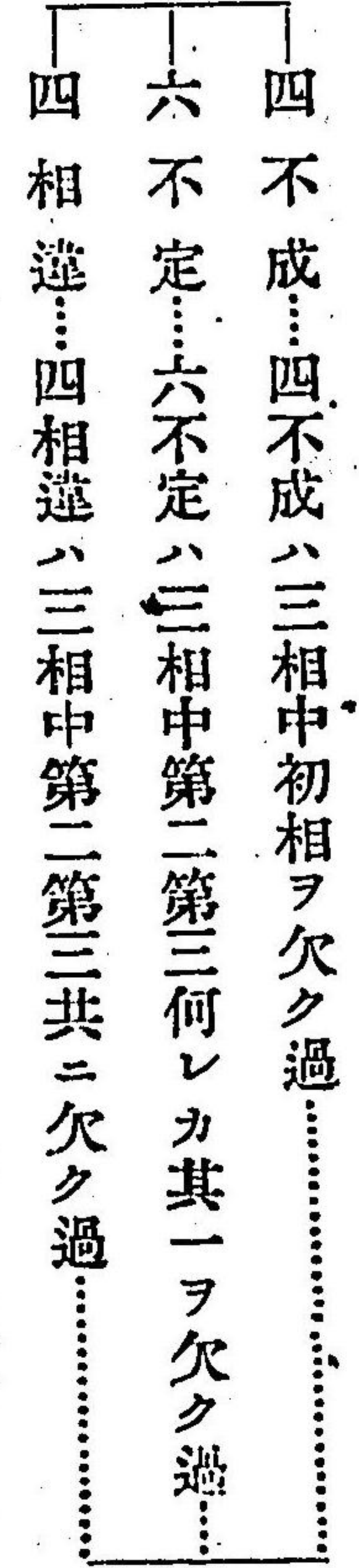
者ニ通セサレハ敵者決シテ之レニ相對セス全ク徒勞トナ
ル可シ故ニ之レヲ俱不極成ノ過ト云フ

第九相符極成

是ハ一名虛功ト云フ即チ總宗同許ノ過ナリ元來總宗ハ違
他順自ニシテ立敵不同許ナラサル可ラス然ルニ之レニ反
シ双方同ク許ス可キ事柄即チ論據相符合シタル議論ヲ仕
掛ルハ全ク贅辨ニシテ議論スヘキ要用ナシ例セハ(寒中)ハ
最モ冷氣ナル可シト云ヒ或ハ(夏)ノ土用ハ溫度最モ高カル
可シト云フガ如キ世間一般ノ許ス所ニシテ更ニ議論ヲ要
セスシテ既ニ成立シ居ルヘキ譯柄ナリ斯様ナル無益ノ辨
論ハ決シテ爲スヘキモノニ非ストシテ過失ノ部類ニ加ヘ
タルナリ

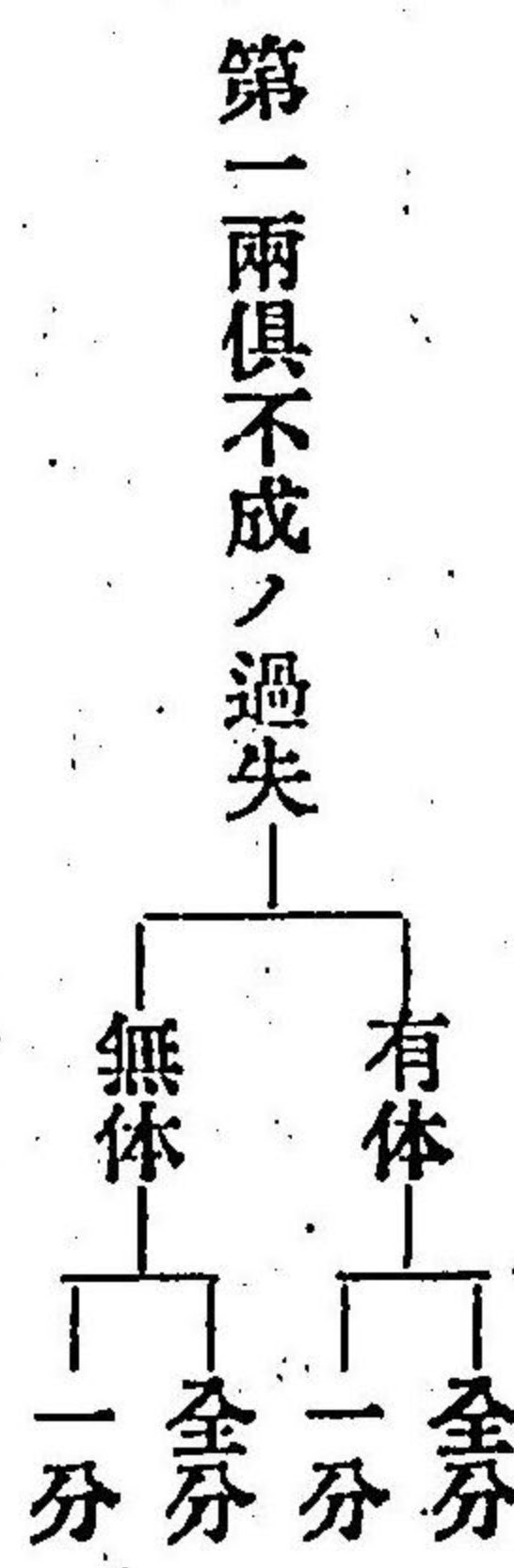
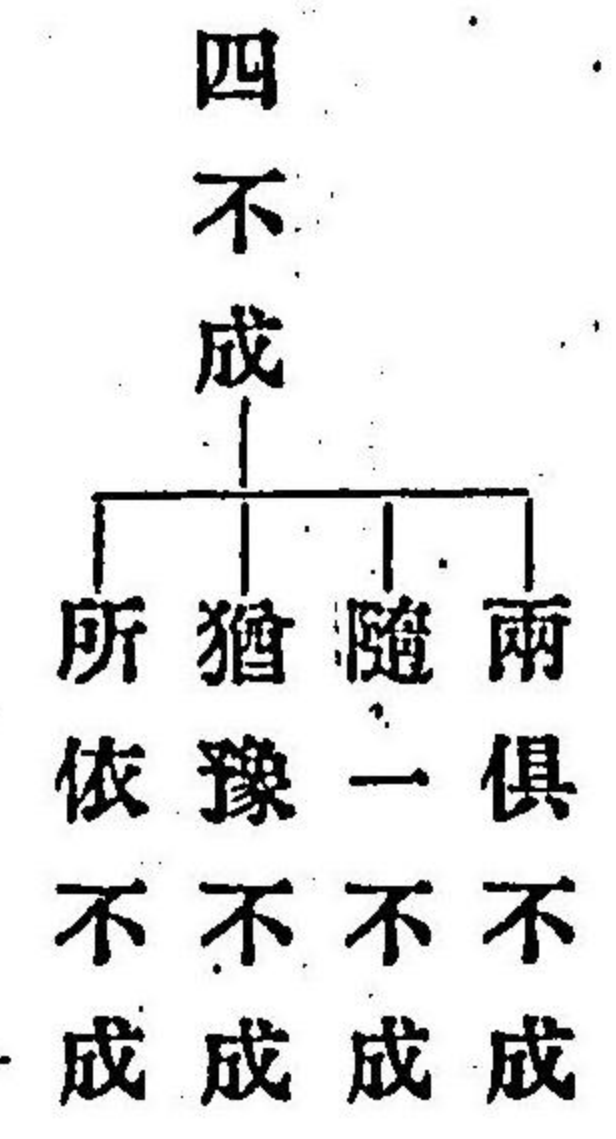
(十) 因十四過

此過類ハ即チ三支中第二ノ因ニ屬スル過失ナリ其分類左ノ如シ



三相ヲ具備セサレハ因ノ体完全セサルナリ而シテ三相ノ体ヲ欠クモノ缺過トナリ義理ヲ欠クモノ支過トナル故ニ彼是相對照シテ其過誤ヲ調査シ研究スルヲ要ス

以下四不成ヨリ順次ニ説明セン其分類名目左ノ如シ

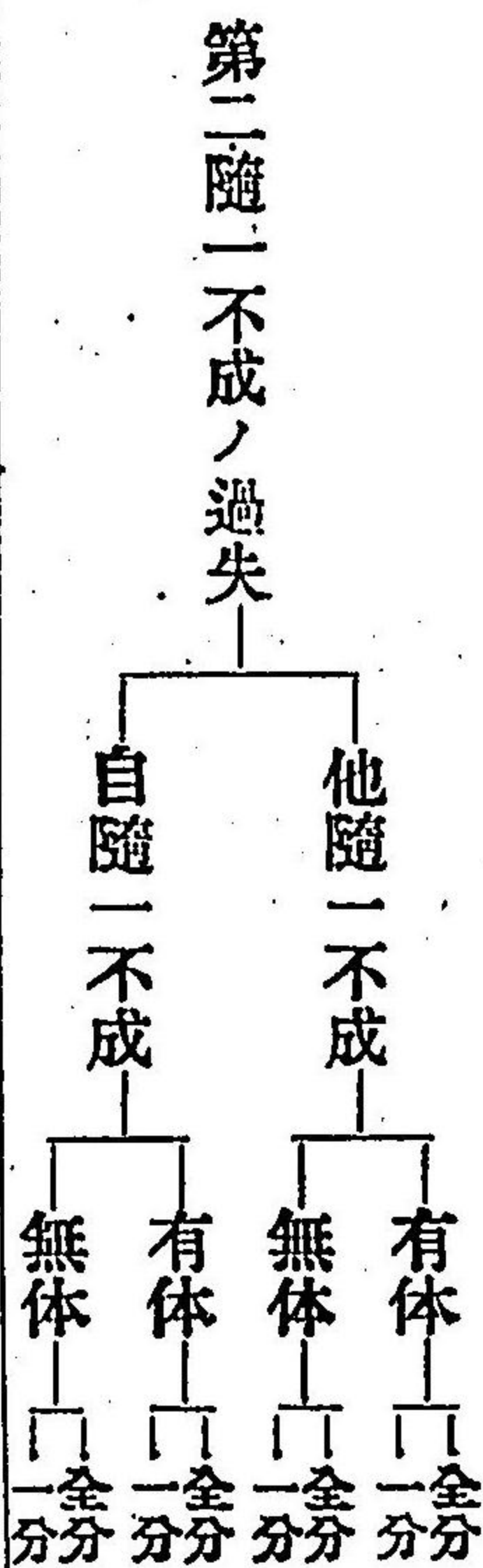


是ハ能立ノ因故確カナラスシテ立者ノ方ニモ敵者ノ方ニモ共ニ宗ヲ成立セシムル能ハサル偽因ニ名ク抑因ハ其性質立敵共ニ宗ノ前陳ニ能ク行渡ル事ヲ承諾シ居ル事件ヲ用ヒサル可ラス例セハ人ハ死ス可シト云フ時ハ其人ト云フ事ニ能ク行渡ル可キ生命ノ因故ヲ用ヒ或ハ政黨ハ必要ナリト云フ時ハ其政黨ト云フ事ニ能ク行渡ル可キ國政ノ

因故ヲ用ユルヲ要ス兩俱不成ハ之レニ反スル故ニ過失トナル今一二ノ例ヲ舉レハ

日輪ハ火聚ナル可シ 耳ノ所聞ナルガ故ニ 人ハ萬物ノ靈長ナル可シ 空中ヲ翔ルカ故ニ

右様ノ如キ因故ヲ用ル時ハ全ク宗ノ前陳ニ離隔シテ不成ノ因トナリ立敵共ニ承諾スル能ハサルナリ而シテ此兩俱不成ニハ前圖ノ如ク有体ト無体トアリ尙之レニ全分一分ノ過誤アツテ都合四種ノ過類トナル今ハ繁ヲ省キ有体全分ノ一例ヲ示ス他ハ之ニ因テ類推スヘシ

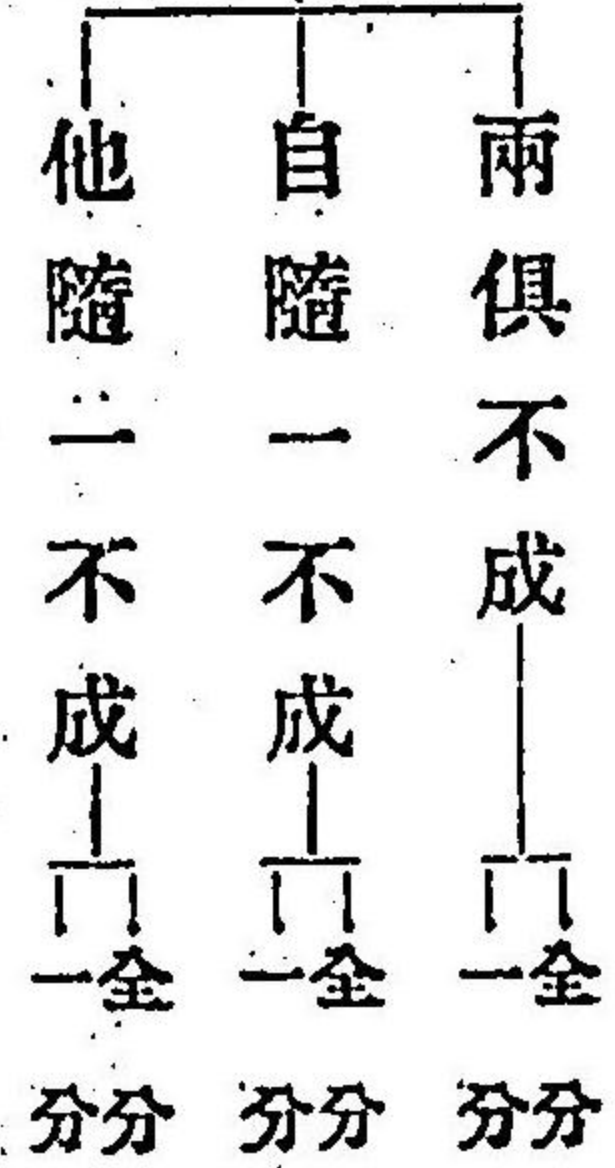


是ハ能立ノ因故カ立敵二者ノ内何レカ一方ニ於テ宗ヲ成立セシムル能ハサル偽因ニ名ク而シテ立敵ノ許否ニ因テ自他ノ區別ヲ生ス例セハ彼ノ勝論學派ガ聲顯學派ニ對シ聲ハ無常ナリ所作性ナルカ故ニト云フ時ハ他隨一不成ノ過失トナル之レニ反シ聲顯學派ガ如斯云フ時ハ自隨一不成ノ過失トナル更ニ一例ヲ舉レハ

惡人ハ未來苦境ニ沈ム可シ 神ノ所罰ヲ被ルガ故ニ 未來ノ昇沈ハ神ノ支配スル所ナリト信スル耶蘇教者ガ斯クノ如ク立言スル時ハ即チ自ラハ之レヲ承諾スルモ敵者ガ許サ、ル故他隨一不成ノ過失トナル之レニ反シ未來ノ苦樂ハ因果ノ理法ニ據ルモノトシテ神ヲ信セサル佛教者ガ斯クノ如ク云フ時ハ却テ已レ自ラ許サ、ル因故トナル

カ故ニ自隨一不成ノ過失ナリ蓋シ自分ノ意思ニナキ所即チ自ラ信セサル事柄ヲ以テ一時時好ニ投セントシ論理ヲ誤魔化ス場合アリ例セハ彼ノ地價修正ハ民力ヲ休養スルニ足ラスト思フモノガ他ノ刺撃ヲ受ケ無成算ニ雷同シ地價修正ハ必要ナリ民力ヲ休養スルカ故ニト云フカ如キ即チ自隨一不成ナルモノナリ然レ共斯様ノ過失ハ世間極メテ少キモノニシテ多クハ他隨一不成ノ過ナリ此不成ニモ前圖ノ如ク自隨他隨有体無体全分一分ト都合八種ノ過類アリ今ハ畧シテ一斑ヲ示スノミ

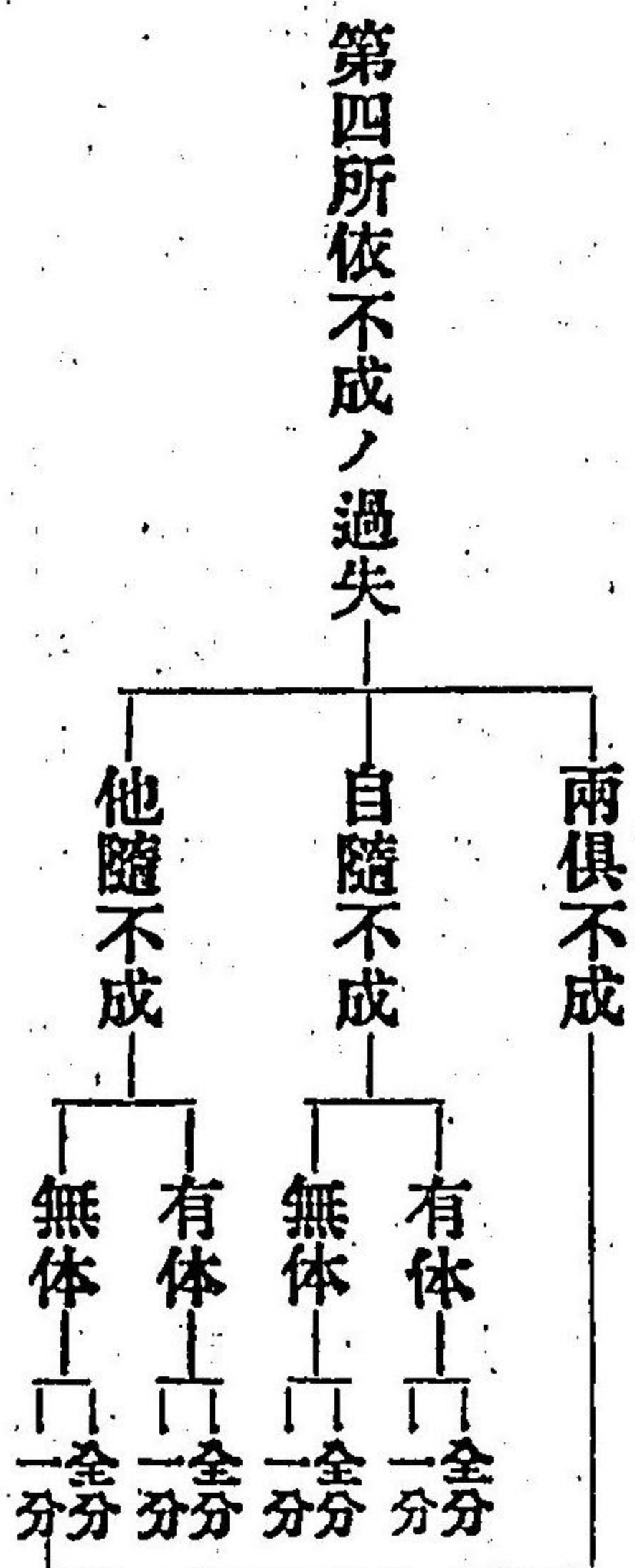
第三猶豫不成ノ過失



是ハ能立ノ因故カ宗ニ對シテ自ラ猶豫シ決智ヲ生セサル僞因ニ名ク會テ云フガ如ク因ハ確乎トシテ宗ノ前陳ニ普遍セサル可シ然ルヲ立者自ラ疑惑ヲ生シテ猶豫ス奚ンソ敵者ヲシテ宗ノ成立ヲ首肯セシメ得ヘケンヤ今此過失ニ就テ一二ノ例ヲ舉レハ

此物ハ醉フ可キ効能アル可シ 酒ナリト思フカ故ニ 甲某ハ學者ナル可シ 教育經驗ニ富ルノ噂アルカ故ニ 如斯立言スルハ立者自ラ酒ナリト認メテ云フニモアラス 又教育經驗ニ富ルヲ自ラ實驗シタルニモアラス唯他人ノ 說ヲ聞キ已レガ想像ヲ以テ論定スルニ過キス所謂自ラ疑惑ヲ存シテ決智ヲ生セサルモノナリ故ニ之レヲ猶豫不成ノ過失トナス此不成ニモ前圖ノ如ク兩俱及ヒ自他隨一ノ

不成并ニ全分一分ノ過類ヲ分チ都合六種ノ過失トナル今
ハ畧シテ其一斑ヲ示スノミ

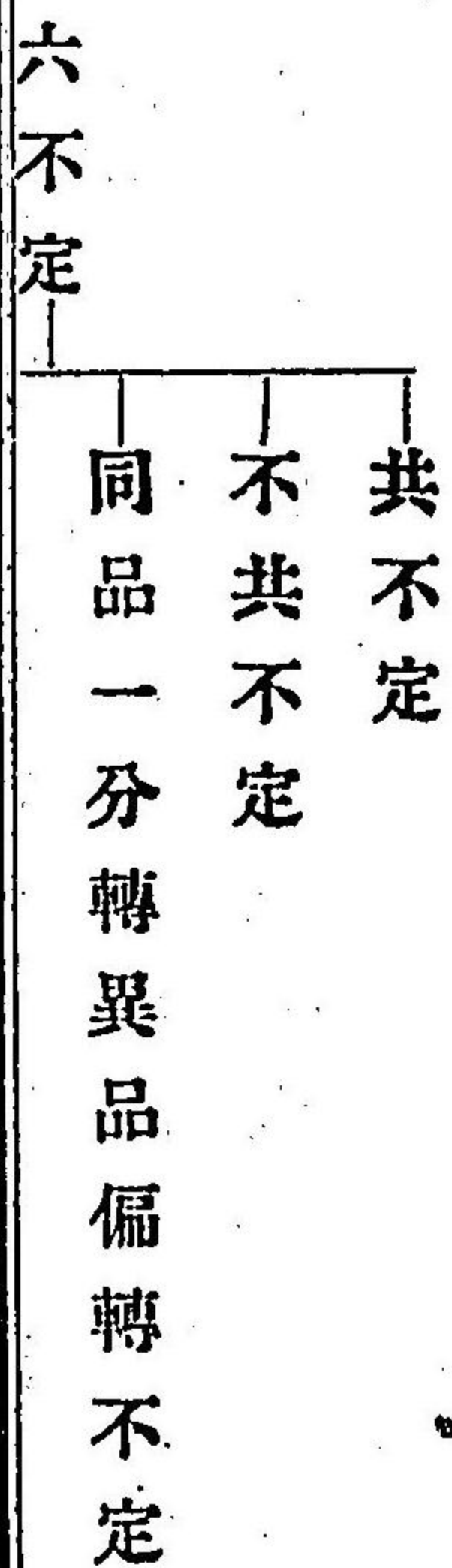


是ハ別宗中ノ前陳ニ過失アル時ニ用ユル因故ノ過失ニ名
ク即チ所依トハ宗ノ前陳ヲ指スナリ換言セハ宗ニ所別不
極成ノ過失アル時ハ必ス因ニ所依不成ノ過ヲ來ス茲ニ其
例ヲ舉レハ

アリストートルハ古代ノ博識家ナリ

諸般ノ學理ヲ修ムルカ故ニ

造物者ハ畏敬ス可シ 常ニ吾人ヲ照鑒スルカ故ニ
如斯因故ハ既ニ宗ノ前陳ト後陳ト離反シテ所別ガ成立セ
サル事ヲ知リナカラ強テ之レヲ確カメントスルノ因ニシ
テ諸般ノ學理又ハ吾人照鑒等ノ言語ハ敵者ノ許サ、ルア
リストートル又ハ造物者等ノ前陳ニ行渡ル、能ハサルナ
リ故ニ之レヲ所依不成ノ過失ト云フ之レ亦前圖ノ如ク兩
俱及ヒ自他隨一全分一分ノ別アリ都合九種ノ過類トナル
以上不成ノ過ヲ大別スレハ四種ニ分レ之レヲ細別スレハ二
十七種トナル其巨細ハ專門ノ書類ニ就テ研究ス可シ



異品一分轉同品偏轉不定
俱品一分轉不定
相違決定

六不定ハ因ノ三相中第二第三何レカ一方ヲ欠ク即チ同品定有性、異品偏無性ニ對スル過失ナリ但シ六不定中獨リ相違決定ハ他ノ不定ト趣ヲ異ニシ三相完全スレ共決智ヲ生セサルヲ以テ不定ノ部類ニ加フ以下左ニ説明セン

第一共不定

是ハ因ガ寬廣ニ過キテ同品ニモ異品ニモ全部遍通スルヲ云フ元來因ハ同喩ニ合シ異喩ニ離レサル可ラス然ルヲ同異共ニ關係シ而カモ全部ニ遍通スル時ハ事物事件ヲ何レ共定ムル事能ハサルナリ故ニ之レヲ共不定ノ過ト云フ彼

ノ九句因中ノ第一同品有異品有ニ相當シ第三相ヲ欠クモノナリ再ヒ茲ニ其例ヲ舉ク

此寺院ノ敷地ハ我單有ナル可シ、地券証アルガ故ニ、余ノ耕地ノ如シ、村社敷地ノ如シ、

即チ地券証ノ因故ガ同喩ニモ異喩ニモ遍通ス尙委敷ハ同喩ニ就テ合作法ヲ爲シ異喩ニ就テ離作法ヲ試ム可シ左スレハ宗ノ單有ニモ過失ヲ顯ス可シ

第二不共不定

是ハ全ク前項ニ反シ因ガ狭少ニ過キテ同品ニモ異品ニモ共ニ行渡ル能ハサルヲ云フ異品ニ對シテハ素ヨリ行渡ラサルヲ可トスレ共肝要ナル同品ニ對シ無關係ニテハ因ノ功能ナシ故ニ之レヲ不共不定ノ過失ト云フ即チ九句因中

第五ノ同品非有異品非有ニ相當シ第二相ヲ欠クモノナリ
其例

此耕地ハ官有ナル可シ、穀物ヲ培養スルカ故ニ、
師團敷地ノ如シ、農工商家具ノ如シ、

即チ穀物培養ノ因故ガ同諭ニモ異諭ニモ全ク無關係ニシ
テ所謂共ニ不定ナルモノナリ之レ亦合作法離作法ヲ試ミ
テ其過失ヲ確カム可シ

第三同品一分轉異品偏轉不定

是ハ因ガ必定シテ關係スヘキ同品ニハ僅カニ一部分ノミ
行渡リ却テ無關係ナルヘキ異品ニ對シ全部行渡リタル過
失ヲ云フ即チ九句因中第七ノ同品有非有異品有ニ相當シ
重モニ第三相ヲ欠クモノナリ例セハ

池沼ハ無稅トスヘシ、地券証アルカ故ニ、
墓地ト海面トノ如シ、耕地ト宅地トノ如シ、

即チ地券証ノ因故カ一分同諭ニ關係シ全分異諭ニ行渡ル
合離ノ兩作法ヲ試ムヘシ

第四異品一分轉同品偏轉不定

是ハ前項ニ反シ同品ニ遍ク行渡ル處ハ無過正量ナレ共全
ク離隔スヘキ異品ニ對シ一分行渡ルヲ以テ過失トス即チ
九句因中ノ第三同品有異品有非有ニ相當シテ第三相ヲ欠
クモノナリ例セハ

山林ハ租稅ヲ課スヘシ、收穫アルガ故ニ、
耕地ノ如シ、不毛地河池海ノ如シ、

即チ收穫ノ因故ガ同諭ニ行渡ルノミナラス離隔スヘキ異

喻ニ對シ一分ノ關係ヲ有ス故ニ過失ヲ免カレヌ
第五俱品一分轉不定

是ハ因ガ全ク行渡ルヘキ同品ニ對シ一分ノミ關係シ又全ク離隔スヘキ異品ニ對シ却テ一分ノ關係ヲ有ス故ニ之レヲ俱品一分轉ノ過失ト云フ即チ九句因中ノ第九同品有非有異品有非有ニ相當ス例セハ

廣島ハ皇國上等ノ都會ナルヘシ、師團アルカ故ニ、
三府ノ如シ、諸縣ノ如シ、

即チ師團ノ因故ガ同異共ニ一分ツ、關係シテ確然タル証據立ヲ爲ス能ハサルナリ

第六相違決定(普通畧シテ違決ト云フ)

是ハ前ニモ云フ如ク三相ノ体ニ於テハ欠ル所無シト雖モ

其義理ニ於テ双方互ニ相違シタル宗ヲ各自ニ成立シテ爭フ所ノ論法所謂白眼合ヒノ姿ナリ(論理學者ノ各據一義ト云フハ之レナリ)即チ宗ヲ見レハ立敵反對ノ相違アレ共其論法ヲ見レハ双方何レモ完全ノ立量ナリ之レ即チ立者ノ論ヲ破壊セスシテ敵者カ更ニ完全ノ論法ヲ組織スルモノナリ茲ニ一例ヲ示セハ

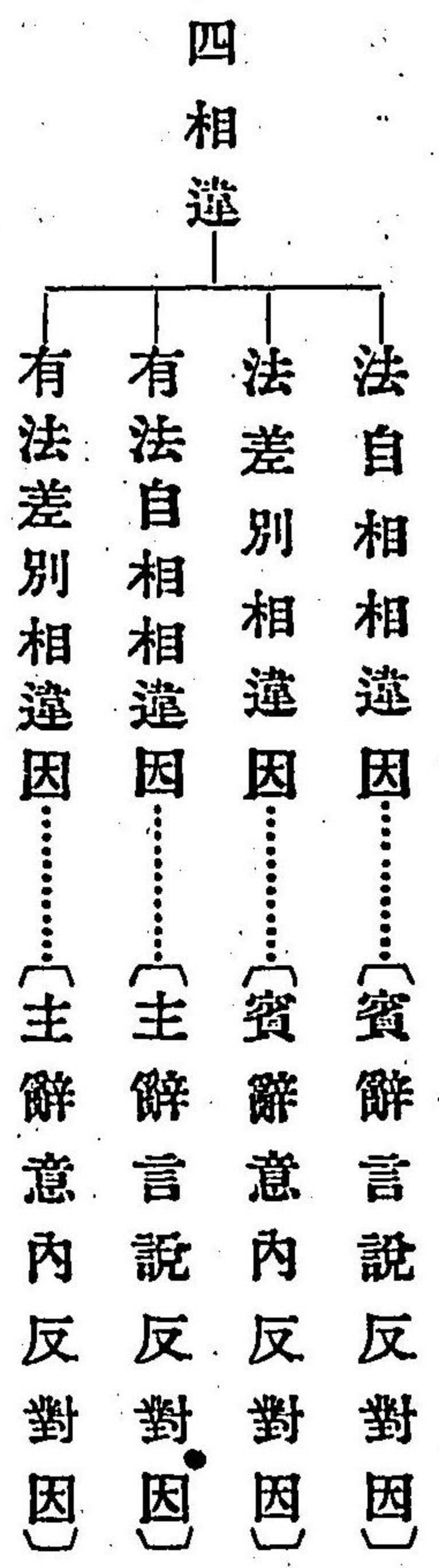
汝ガ如キ不孝者ハ人ト云フ可ラス、不孝ハ畜生ノ所行ナルカ故ニ、禽獸ノ如シ、孝子ノ如シ、

(之レハ父ガ子ニ對スルノ立量ナリ)

假令不孝者モ亦人ト云フ可シ、人類ノ五体ヲ具スルガ故ニ、普通ノ人ノ如シ、禽獸ノ如シ、

(之レハ子ガ父ニ對スルノ立量ナリ)

右ノ如ク双方共立派ニ立量シテ一步モ譲ラス然ルヲ何故ニ之レヲ過失トスルカト云フニ抑因明ハ悟他ヲ以テ目的トスル論理學ナルカ故也換言セハ双方反對ノモノヲ何レカ一方勝ヲ制シテ一致ニ歸セシムルヲ論理ノ法トス然ルニ此違決ハ悟他ノ益無キカ故ニ論式ニ於テハ過失無ケレ共論理法トシテ目的ヲ達スル能ハサルカ故ニ之レヲ過誤ノ部類ニ加ルナリ



四相違ハ因明中最モ難問ノ部分ニ屬セリ抑上來説明シタル

過失ハ皆言語發表ノ上ニ屬スル詮索ナレ共獨リ四相違ニ局リ意故ノ過ヲ表顯スルモノニシテ即チ立者ガ自ラ成立セントスル宗ニ對シ却テ自ラ反對ノ因故ヲ用ル過失ナリ而シテ此四相違ハ前ノ相違決定ト等シク三支ヲ組織スル上ニ於テ其道具ハ完全セリ然レ共相違決定ハ既ニ述ル如ク立敵双方トモ決智ヲ生セス所謂水掛論トナルヲ以テ之レヲ前後俱邪ノ論法ト云ヒ四相違ハ必ス敵者ガ立者ノ因故ヲ其儘用ヒテ之レヲ破ル所謂敵ノ及ヲ以テ敵ノ首ヲ斬ル論法ナリ故ニ之レヲ前邪後正ト云フ

又四相違ニ限リ特殊ノ用語アリ自相差別之レナリ此名目ハ因明中一般ニ唱ル處ノ自相差別トハ其主意頗ル異ナレリ四相違ニ於テ用ユル自相トハ言語ニ發シタルモノ差別トハ意

故ノ懷抱ヲ云フ再言セハ左ノ如シ

自相 言語ノ發表即チ言陳
差別 意中ノ懷抱即チ意故

凡ソ議論ヲ爲スニ思想ノ儘ヲ言語ニ發スルト又塲合ニヨリ
思想ノ儘ヲ言フ能ハス功ミニ曖昧的ノ語ヲ用ヒテ難ヲ避ク
ルノ二様アリ即チ相違因四種ノ内第一ハ正直ナル過失ニ屬
シ後ノ三ツハ故造ノ過失ニ屬ス故ニ之レヲ方便矯立ト云フ
第一法自相相違因

是ハ後陳即チ法ノ言語ニ過誤アルヲ云フ所謂自分ノ因故
カ自分ノ宗ニ反對スルナリ今或ル人ノ立量ヲ舉ケテ其過
失ヲ示サン
甲某ハ死セザル可シ、生物ナルカ故ニ、

乙某ノ如シ、

斯クノ如キ立量ヲ爲ス時ハ敵者ハ直チニ後陳ノ言語ニ過
チアルヲ發見シテ其宗ノ(死セサルヘシ)トアルヲ(死スヘシ)
ト更メ因故ハ其儘立者ノ量ヲ用ヒテ之レヲ論破シ無過ノ
立量トナスヘシ何トナレハ生命アルモノハ必ス死ス可キ
モノナレハナリ

第二法差別相違因

是ハ後陳即チ法ノ意故ニ過誤アルヲ云フ所謂自分ノ思想
ト自分ノ言ヒ顯シタル宗ト反對スルモノナリ試ミニ立量
シテ之レヲ示サン

新聞紙モ世益アル可シ、社會ノ出來事ヲ報道スルカ故ニ、
抑新聞紙ノ益アルハ世人ノ一般ニ許ス處ナリ然ルニ立者

ハ其他ノ講義録或ハ雜誌等自分ガ偏信スル所ノモノニシテ新聞紙ヨリ數等勝ルモノアル事ヲ信シテ新聞紙ヲ第二ニ置カント欲スル意故ヲ懷抱ス然レ共陽ハニ其意故ヲ發表スル時ハ一般ノ非難アル可キヲ恐レ曖昧ニ世益アル可シト言說シ内心ニ之レヲ輕ンスルモノナリ如斯量ヲ立ル時ハ敵者ハ直チニ其意故ヲ看破シ其宗ヲ確カニ(世益最モ多カル可シ)ト更メ其道具即チ因故ヲ其儘ニ用ヒテ無過ノ量ヲ成スルナリ

第三有法自相相違因

是ハ前陳即チ有法ノ言語ニ過誤アルヲ云フ即チ自分ノ言語カ自分ノ樂フ宗ニ違スルナリ試ニ或ル人ノ量ヲ舉テ之レヲ示サン

神ハ心ニ非ス、
物ノ如シ、
教育經驗ニ因テ發達ス可キ性質ニ非サルカ故ニ、

立者ハ神ヲ以テ萬有外ニ立テ宇宙ヲ支配スルモノト信シタル共之レヲ陽ハニ發表スル時ハ反對者ノ非難ヲ恐レ曖昧ニ神ハ心ニ非スト陳ヘ陰ニ自己ノ主義ヲ成立セシメントス如斯立量ヲ爲ス時ハ敵者ハ直チニ其過失ヲ發見シテ其宗ヲ(汝ノ神ハ神ニ非サル可シ)ト更メ同喩ハ其儘ニ之レヲ用ヒ物ノ如ク發達スヘキ性質ニ非サルモノハ汝ノ信スル神ニ非スト論破スルモノナリ

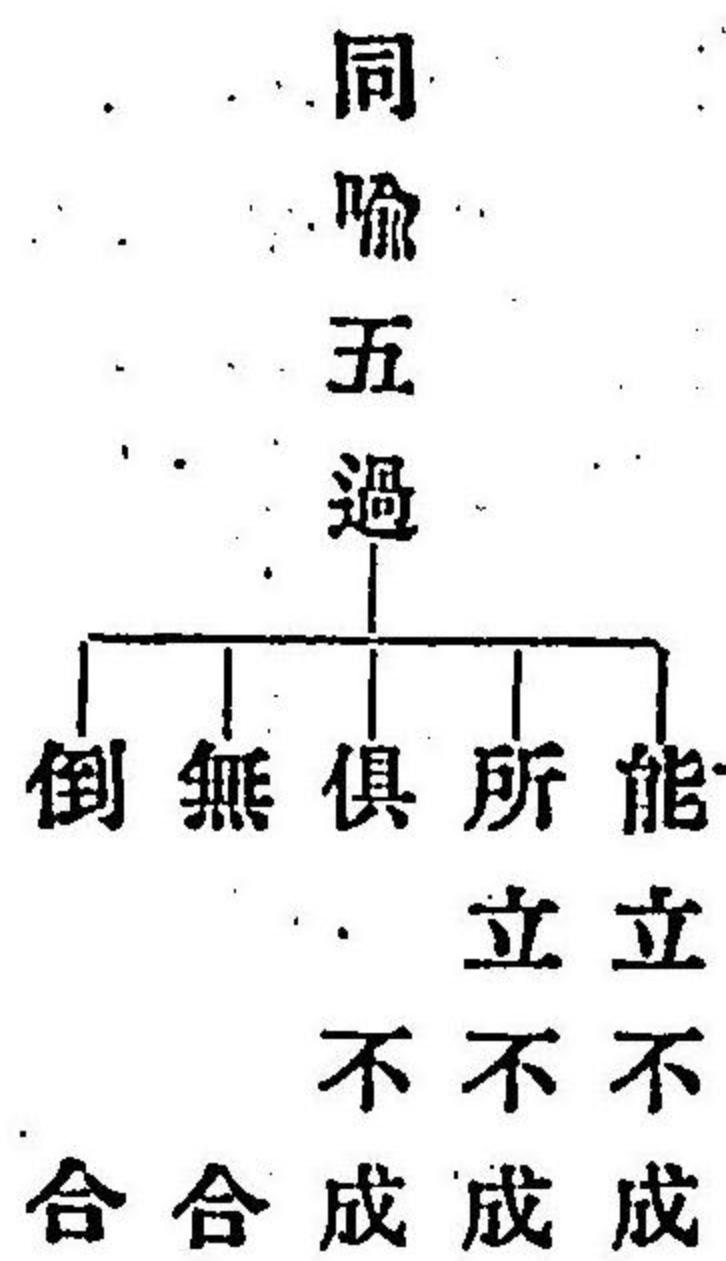
第四有法差別相違因

是ハ前陳即チ有法ノ意故ニ過誤アルヲ云フ即チ自分ノ意故カ却テ自分ノ宗ニ違スルナリ試ニ或ル人ノ量ヲ舉テ之

レヲ示サン
 日輪ハ廢スヘカラス、必要ノ火聚ナルカ故ニ、
 竈ノ火ノ如シ、
 立者ハ國學者等ノ如ク元來日輪ヲ極メテ崇敬スルノ主義
 ヲ抱クモノナリ然ルニ洋學者等ハ日輪ヲ必要品トスレモ
 崇敬セサルモノ多シ此輩ニ對シ陽ハニ崇敬ス可シト云フ
 時ハ直チニ非難ヲ受ク可キヲ恐レ暫ク自分ノ意故ヲ曲ケ
 必要ノ火聚ナリトノ因故ヲ用ヒ陰然日輪ヲ崇敬セントス
 故ニ敵者ハ直チニ其意内ヲ看破シ其宗ヲ(日輪ハ崇敬ス可
 キモノニ非ス)ト更メ必要ノ火聚ナリトノ因故ヲ其儘ニ取
 テ無過ノ量ヲ成スル也

(十一) 喩十過

上來屢々説明シタル如ク因ハ宗ヲシテ能ク成立セシムル道
 具ナリ喩ハ宗ノ成立ヲ確實ナラシムル爲メ因ヲ助ケテ其保
 証トナル可キモノナリ故ニ若シ喩ニシテ保証ニ必要ナル條
 件ヲ欠ク時ハ其効無キノミナラス宗ハ決シテ成立セサル可
 シ之レ即チ喩ノ欠点ヲ調査スル所以ナリ而シテ此過失ノ種
 類ヲ分ツテ十箇トシ其内五過ハ同喩ニ屬シ五過ハ異喩ニ屬
 ス先ツ順序トシテ同喩ノ五過ヲ説明セン其名目左ノ如シ



第一能立不成

能立不成トハ宗因ニ對シ脈絡貫通スヘキ筈ノ同喩ガ其一
方ナル宗ニハ行渡ルモ能立即チ因ニ行渡ラサル過失ヲ云
フ左ニ立量シテ之レヲ例セン

甲某ハ日本人ナリ、東京人ナルカ故ニ、

地方人ノ如シ、

因故即チ能立ヲ助クヘキ同喩ガ宗ノ日本人ニハ行渡レ共
因ノ東京人ニハ一向行渡ラスシテ同喩ノ働キ更ニ無シ故
ニ能立ニ對シ不成ノ過ヲ來スナリ

第二所立不成

所立不成トハ前ニ反シ同喩カ因ニハ行渡ルモ宗即チ所立
ニ行渡ラサル過失ナリ左ニ立量シテ之ヲ例セン

甲某ハ東京人ナリ、日本人ナルカ故ニ、

地方人ノ如シ、

同喩ノ地方人ガ因故ニハ行渡レ共所立即チ宗ニ對シテ關
係ヲ絶チ不成ノ過ヲ來タスナリ

第三俱不成

俱不成トハ前ノ能立不成ト所立不成トヲ併有スルノ過失
ニシテ即チ同喩カ宗及ヒ因ニ對シ共ニ行渡ラサルナリ左
ニ立量シテ之レヲ例セン

甲某ハ日本人ナリ、東京人ナルカ故ニ、

歐米人ノ如シ、

同喩ノ歐米人ハ宗ノ日本人ニモ因ノ東京人ニモ共ニ合セ
スシテ俱不成ノ過ヲ來タスナリ

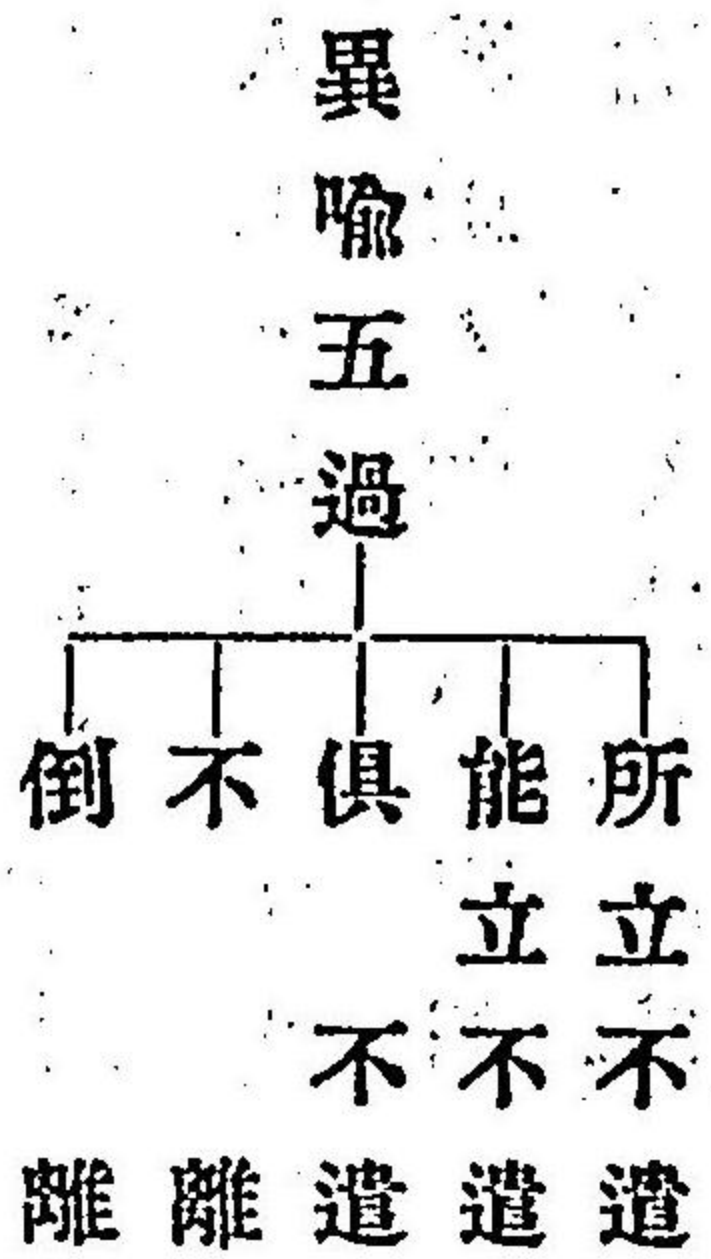
第四無合

無合トハ無合屬作法ト云フ言ヲ畧シテ無合ト稱スルナリ
抑因明學ニテハ同喩合作法ヲ爲シ表面ヨリ其過失ヲ調査
セサレハ假令無過ノ立量ニテモ正確ノ認定ヲ下サ、ルヲ
法トス故ニ其手續ヲ畧シタル立論ハ之レヲ完全ト認メス
シテ一ツノ過失トナスナリ

第五倒合

倒合トハ顛倒合法ノ約語ナリ總テ事理ヲ推續スルニハ既
知ニ因テ未知ヲ推續セサルヲ得ス故ニ其合作法ヲ爲スニ
當テハ先因後宗ヲ正則トス然ルヲ誤テ先宗後因ノ作法ヲ
爲ス時ハ更ニ其効ヲ見ス故ニ之レヲ顛倒合法ノ過失ト爲
スナリ

是レニテ同喩ノ五過ヲ畧說セリ次ギニ異喩ノ五過ヲ説明セ
ン元來異喩ハ宗因ノ反面的ニ立チテ其濫ヲ止ムルノ道具ナ
レハ極メテ宗因ノ二義ニ關係セサル事柄ヲ舉クルヲ要ス



第一所立不遣

所立不遣トハ宗因ニ對シ全ク無關係ナル可キ異喩カ所立
即チ宗ヲ遮遣(遮キリ拂フノ意)シ得サル過失ヲ云フ左ニ立
量シテ之レヲ例セン

人魂ハ斷滅セサル可シ、形質ナキカ故ニ、

神靈ノ如シ、空○氣○ノ如シ、
空氣ハ宗ノ人魂ト引離ルヘキ筈ナルニ却テ能ク行渡レリ
故ニ所立不遣ノ過トナル

第二能立不遣

能立不遣トハ前ニ反シ異喩ガ宗ヲハ遮遣スレ共因故ニ行
渡リテ過失トナル例セハ左ノ如シ

人魂ハ斷滅セサルヘシ、形質ナキカ故ニ、

神靈ノ如シ、喜○怒○哀○樂○ノ如シ、

異喩ノ喜怒哀樂ハ時々生滅スルモノ故宗ニ對シテハ無過
ナレ共因故ノ形質ナキモノニハ同類ニシテ遮遣ノ効ナシ
故ニ能立不遣ノ過トナル

第三俱不遣

俱不遣トハ異喩カ宗及ヒ因ニ對シ共ニ引離レスシテ反テ
行渡ルノ過ナリ例セハ左ノ如シ

人魂ハ斷滅セサルヘシ、形質ナキカ故ニ、

天帝ノ如シ、神○靈○ノ如シ、

異喩ノ神靈ハ斷滅モセス又形質モ無シ故ニ宗因共ニ遮遣
スル能ハス俱不遣ノ過トナル

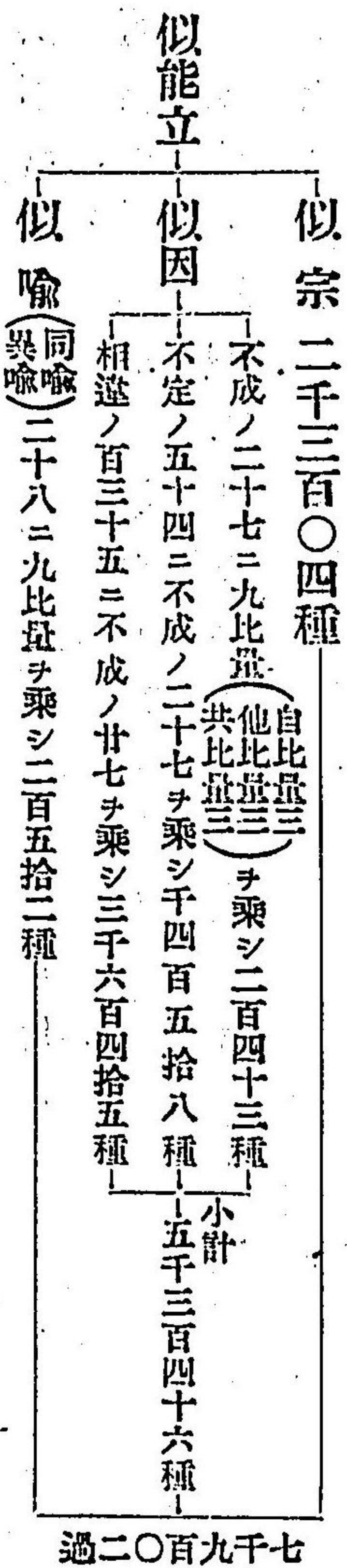
第四不離

不離トハ離作法ヲ略シタルヲ云フ抑因明ニテハ必ス異喩
離作法ヲ爲シテ裏面ヨリ其過失ヲ調査スルヲ法トス然ル
ヲ其手續ヲ省畧スル時ハ假令過失ヲ見出サ、ルモ道具ノ
欠ケタルヲ以テ一ノ過失ト爲スナリ

第五倒離

倒離トハ倒合ノ反對ナル過失ニ名ク抑合作法ハ先因後宗
ヲ法トシ離作法ハ先宗後因ヲ法トス然ルニ異喩ニ於テ離
作法ヲ試ルニ當リ其順序ヲ誤リ先因後宗ト爲ス時ハ假令
作法ハ試ムルモ因明ノ法則ニ背クヲ以テ倒離ノ過失トス
ルナリ

以上三十三過ヲ畧說シ了ル素ヨリ其一斑ヲ舉ルノミ元來宗
因喩ノ過類ハ約シテ三十三過ト爲スモ之レヲ細別分類セハ
七千九百〇二過アリト云フ参照ノ爲メ茲ニ其數ヲ舉ケン



(十二) 十四相似過類

此過類ハ元來足目ノ所造ナルヲ陳那論師カ分類完成シタル
モノナリト云フ即チ似能破ニ屬スル過失ナリ之レ大体ノ論
論ニシテ細說スレハ許多アラン茲ニ其名目ヲ列舉セハ左ノ
如シ

- 一 同法相似過類
- 二 異法相似過類
- 三 分別相似過類
- 四 無異相似過類
- 五 可得相似過類
- 六 猶豫相似過類
- 七 義准相似過類

八至不至相似過類

九無因相似過類

十無說相似過類

十一無生相似過類

十二所作相似過類

十三生過相似過類

十四常住相似過類

如斯分類スレ共要スルニ何レモ立者ノ真能立ニ向テ似能破ヲ加エ言辭ヲ費シテ誤魔化シヲ試ミ強テ真能立ニ過失ヲ着ケントスル論法ヨリ生スル過ナリ而シテ其義趣幽邃ナレハ其過誤ヲ看破セント欲スルニハ似能立ノ三十三過等ヲ能ク記憶セサレハ容易ニ見出ス事能ハサル可シ今ハ其繁ヲ省キ

逐一説明スル事ヲ畧シ左ニ一二ノ例ヲ示サン他ハ概テ類推シ得ラル可シ

似能破ノ分類十四アレ共其論法ヲ約スレハ左ノ二類也

一似顯過破 (誤謬顯過破)

二似立量破 (誤謬立量破)

第一似顯過破ノ例ヲ舉レハ茲ニ立者アリ

或ル貴官モ日本ノ法律ヲ守ル可シ、日本國ノ臣民ナルカ故ニ、一般日本人民ノ如シ、

如斯無過完全ナル立量ニ對シ強テ之レヲ攻撃セント欲シ貴賤ノ別爵位ノ高下等ヲ口實トシ宗又ハ因ニ非難ヲ試ミ無理不法ナル能破ヲ爲スノ類之レヲ似ノ顯過破ト云フ
第二似立量破ノ例ヲ舉レハ前ノ如キ立者ノ正量ニ對シ

或ル貴官ハ日本ノ法律ヲ守ラサルモ隨意タル可シ、
日本人中第一位ノ高官ナルガ故ニ、皇族ノ如シ、
如斯非理不法ナル立量ヲ爲シテ立者ノ眞能立ヲ破ラント
試ムルノ類之レヲ似ノ立量破ト云フ
上來因明學ノ大体ヲ講述シ了ル茶席ノ談話素ヨリ用意少ク
判釋説明ノ誤謬必ス多カラシク委クハ入正理論等ノ書籍ニ就
キ専門ニ研究アランコトヲ望ム

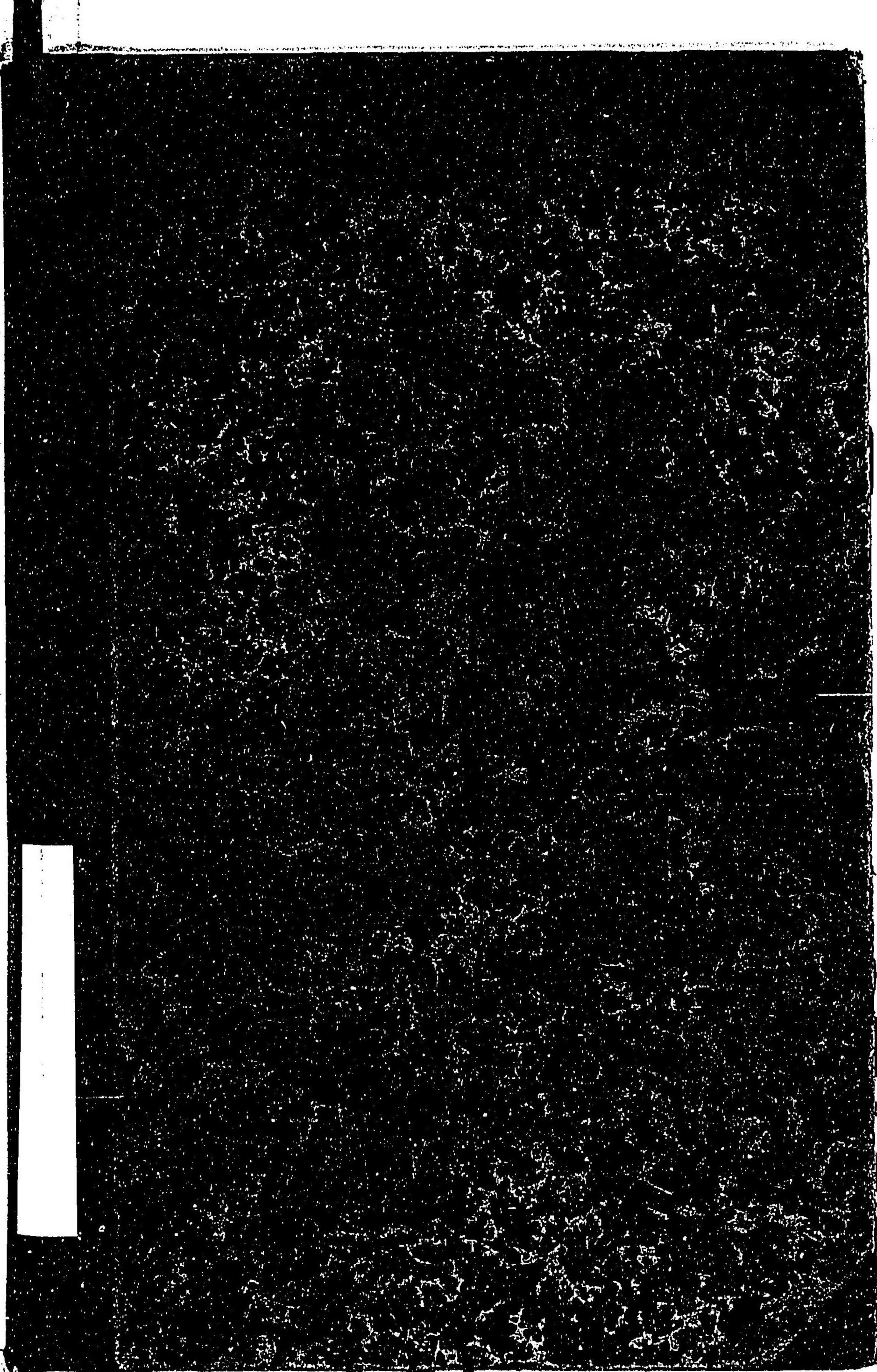
明治三十年二月廿五日印刷
明治三十年三月十一日發行

岡山縣備中國小田郡笠岡町
大字笠岡三百四十五番邸
著述者
兼發行者
島山省三

岡山縣備前國岡山市大字
東中山下二百七番邸
印刷者
村本三十郎

岡山縣備前國岡山市大字
東中山下二百七番邸
印刷所
研精堂

19
598



1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21
22
23
24
25
26
27
28
29
30
31
32
33
34
35
36
37
38
39
40
41
42
43
44
45
46
47
48
49
50
51
52
53
54
55
56
57
58
59
60
61
62
63
64
65
66
67
68
69
70
71
72
73
74
75
76
77
78
79
80
81
82
83
84
85
86
87
88
89
90
91
92
93
94
95
96
97
98
99
100